

リアホナ

世代を超えて
信仰を受け継ぐ、28ページ

クリストファーソン長老を紹介します、8ページ

人生という試験に合格するために、38ページ

今度はちゃんと聞かから! 「フレンド」10ページ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
 ディーター・F・ウークトドルフ、
十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、
 ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン
編集長: ジェイ・E・ジェンセン
顧問: ゲーリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー
実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト
編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ
主任編集者: ラリー・ヒラー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク
編集主幹: R・パル・ジョンソン
編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド
副編集長: ライアン・カー、アダム・C・オルソン
編集補佐: スーザン・バレット
編集スタッフ: クリスティー・バンズ、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・A・エドワーズ、ラリー・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニファー・マティア、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワウデル
主任秘書: ローレル・トイスチャー
マーケティング部長: ラリー・ヒラー
実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー、オース、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ピクストン
印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック
配送ディレクター: ランディー・J・ベンソン
日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
 半年予約 1,200円(送料共)
 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
 Room 2420, 50 East North Temple Street,
 Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。
 アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、オランダ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、ヒンディー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マニラ語、マダガスカル語、モンゴル語、ロシア語、ルーマニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
 ©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本
 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
 「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語) に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
 August 2008 no. 8 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)
 POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一 般

- 2 大管長会メッセージ——わたしたちも、そう生きられますように
トーマス・S・モンソン大管長
- 8 D・トッド・クリストファーソン長老——主の僕となるように備えられた人
クエンティン・L・クック長老
- 18 慎み深さ——主への敬意 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 25 家庭訪問メッセージ——姉妹たち一人一人は天の両親から愛されている娘であり、
神聖な行く末を受け継いでいる
- 28 家族の信仰 キンバリー・リード
- 41 聖文研究を常に実りあるものとするために
- 44 末日聖徒の声
大聖堂にこだました賛美歌 コリン・アラン
忘却のかなたから現れたすばらしい求道者 パリー・W・カーター
パンと証 ^{あかし} ビダ・H・リデル
わたしはほんとうに知っていたのでしょうか
ジャスティン・ゲラシターノ
- 48 読者からの便り

表紙 「フレンド」表紙
 写真/キンバリー・リード 絵/ロジャー・モックス

25 家庭訪問メッセージ



18
 慎み深さ
 ——主への敬意

41
 聖文研究を常に
 実りあるものとするために



家庭の夕べのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなく
 クラスでのレッスンにおいて
 も役立つことができます。

「**慎み深さ——主への敬意**」18ページ——「**神殿参入のための慎み深い服装**」の
 項を読み、家族に最後の
 二つの段落にある質問
 に答えてもらいます。

(話し合いの中で、適切な服装をした
 ときのことを子供たちが思い出せるよ
 うにしてください。) 学校、職場、社交
 行事といった神殿以外の場面ではど
 のような服装をするべきかについて
 家族と話し合しましょう(『若人の強さ
 のために』14参照)。



「**永遠の家族を築く**」34ページ——
 堅固な土台の大切さについて説明
 するために、積み木で小さな塔を
 作り、いちばん下の積み木を引
 き抜きます。記事を紹介し
 ながら、デ・オヨス長老の父
 親がどのようにして息子
 のために堅固な土台
 を築いたかを注意し
 て聞くよう家族に言います。土台
 を強めるために、あなたの家族
 ができる方法について話し合っ
 てください。

「**これまでの……人生で最大の試験**」38ページ——紙を何枚か用意し、
 1枚に一つずつ、家族が直面してい

こんげつごう
 今月号のどこかに隠れている
 サモア語のCTRリングを捜しながら、
 パプテスマの聖約を交わして守ることが、
 どのように正義を選ぶのを助けてくれるか
 考えてみましょう。



青少年

- 14 バンと水以上のもの ライアン・カー
- 17 ポスター——霊のごちそう
- 24 ジョセフの教え——死の時にあって慰めを得る
- 26 質疑応答——教会に来なくなってしまった友達が何人かいます。彼らが教会に戻って来るために、わたしは何をしてあげられるでしょうか。
- 34 永遠の家族を築く ベンハミン・デ・オヨス長老
- 38 これまでの……人生で最大の試験 アダム・C・オルソン

34 永遠の家族を築く



る問題を書きます。アンドレアの話をしてから、40ページ右下にある「主の教科書」の欄を読みます。家族に紙を選ばせ、その問題に取り組むうえで役立つ聖句を探してもらいます。

「今度はちゃんと聞くから！」 F10 ページ——聖霊がどのようにわたしたちを導いてくださるかを教えてください。ゲームをしましょう。家族の一人に部屋の外に出てもらいます。主を描いた絵を部屋の中に隠します。部屋の外に出ていた人に、中へ入って絵を捜してもらいます。絵に近づいているときは「暑い」と言い、遠のいているときは「寒い」と言いながら導いてあげます。マヌエルのお話をしながら、御

たま
 霊に頼ることについてマヌエルが何を学んだかを探しましょう。最後に、教義と聖約第11章12節を読みます。

「宣教師になる練習中」 F14 ページ——パブロの話を紹介し、家族が伝道に出る準備をするうえで役立つよう、教える、アイロンをかける、計画する、聖文を研究するなど、宣教師が学ばなければならない技能を訓練します。（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には、さらに多くのアイデアが載っています。）最後に料理をして、ごちそうを作りましょう。伝道に出るために今できることについて、具体的な計画を立てます。



F13 色をぬりましょう



F12 特別な証人

フレンド

- F2 預言者の声——行動を起こさせてくれる強い力
 ディーター・F・ワークトドルフ 管長
- F4 分かち合いの時間——天国
 リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——
 ジョセフのたびでおきたきせき
- F8 わたしはけいけんになることができます
 ダイアナ・エッカーセル・ヤンソン
- F10 今度はちゃんと聞くから！ サニー・マクレラン・モートン
- F12 特別な証人——
 霊的に守られるにはどうすればよいでしょうか？
 ダリン・H・オークス 長老
- F13 色をぬりましょう
- F14 友達になろう——宣教師になる練習中

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

| | |
|---------------|---------------------------|
| Fは「フレンド」の略 | 祝福、46、F6 |
| 証、26、46、47、F2 | 信仰、25、28、F13 |
| 頼み、14 | 神殿、18 |
| アロン神権、14 | スミス、ジョセフ、47、F6 |
| イエス・キリスト、2、14 | 聖餐、14、17、34 |
| 祈り、26、46 | 聖文、34、38、41 |
| 教え、1、6、28 | 聖霊、18、F4、F10 |
| 音楽、44 | 懐み深さ、18 |
| 確認の儀式、F4 | 伝道活動、44、45、47、 F10、F14 |
| 家族、28、34、F14 | 天の御父、25、34 |
| 家庭訪問、25、46 | 友達、26、34 |
| 神の属性、25 | バプテスマ、F4、F13、F14 |
| 教育、38 | 服装、14、18 |
| 悔い改め、14 | ふさわしさ、14、18 |
| 敬虔さ、14、18、F8 | 復活、2 |
| 再活発化、26 | 奉仕、2、14 |
| 死、2、24 | 守り、18、F10、F12 |
| 試験、38 | |
| 従順、38 | |



わたしたちも、 そう生きられますように

トーマス・S・モンソン大管長

7年ほど前の9月の晴れた日、突然、そして何の前触れもなく、ニューヨークの世界貿易センターの二つのビルに2機の飛行機が衝突し、恐ろしい破壊と死をもたらしました。テロリストの企てにより、ワシントンD.C.とペンシルベニア州でもさらに2機が墜落しました。これらの悲劇によって何千人もの男女、そして子供の命が奪われました。楽しい将来の計画は消えうせ、代わりに残されたのは、傷ついた心からわき上がる悲しみの涙と悲痛な叫びでした。

その日の惨事によって直接的に、あるいは間接的に何らかの影響を受けた人々から、数え切れないほどの便りが届きました。レベッカ・シンダーは2001年9月11日火曜日の朝、ユタ州ソルトレーク・シティーからテキサス州ダラスに向かう飛行機に乗っていました。悲劇が起こったとき、合衆国中のフライトがまひしたため、彼女の飛行機もテキサス州アマリロに着陸しました。シンダー姉妹は次のように伝えています。「わたしたちは皆飛行機を降りて空港のテレビを見つけると、状況を伝える報道を見ようと
その周囲に集まりました。乗客たちは自分が無事に地上に降りたことを、愛する人々に電話で伝えようと列を成していました。このフライトに同乗し、伝道地に向かう途上にあつた12人ほどの宣教師のことをわたしは決して忘れないでしょう。彼らは電話をした後、空港の隅で輪になってひざまずき、祈りをささげて

いました。すぐに祈りが必要だと感じた心優しい若い彼らの姿を、そのままご両親に見せられたらどんなに喜ばれるだろうと思いました。」

死の暗闇を追いやる

死はすべての人にいつか訪れるものです。よろめく老人にも訪れます。人生の旅路の半分も歩んでいない人に来世への召喚状が届くこともあれば、幼い子供の笑い声が失われてしまうことも少なくありません。死は、だれも逃れたり、否定したりすることのできない事実なのです。

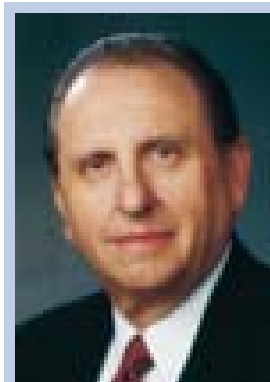
死は、しばしば侵入者として訪れます。人生の祝宴の最中に突然姿を現し、光と快活さを消し去っていきます。死はわたしたちの愛する者の上にその重い手を乗せ、わたしたちは時折、当惑と疑問の渦中に取り残されます。ひどい苦痛や病氣といった特別な状況にあるときには、死は、憐れみの天使として訪れますが、ほとんどの場合、わたしたちは死を人の幸福の敵と考えます。

しかし、回復された真理の光は、死の暗闇を追いやります。

主は言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとひ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」¹

墓を超えた命というこの確信、そうです、この神聖な確証こそ、救い主が約束された平安を与えてくれるものです。主は弟子たちに約束さ



命は何とはかなく、
死は何と確かなもの
なのでしょう。
わたしたちは
自分がいつ
この世を去るように
求められるか
分かりません。
だからこそ、
わたしはこう尋ねたい
と思います。
「わたしたちは
今日をどのように
過ごしていますか」と。

サウロは
ダマスコへ
行く途中、

よみがえり
栄光に満ちた
キリストにまみえました。
後に、
パウロと改名した彼は、
真理の擁護者、
また主の業に働く
勇敢な宣教師として、
復活された主を
証あかししました。

れました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」²

カルバリの暗闇と恐怖の中に、小羊の声が響きました。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」³すると、もはや暗闇は消えうせました。主は御父のもとに帰られたのです。主は神のもとから来て、神のもとに帰って行かれました。同じように、この地上における巡礼の旅を神とともに歩む人々も、祝福された経験を通して、神を頼る子供たちを神はお見捨てにならないと知るので、死の夜にあって、主の存在は「光よりもよく照らし、知った道よりも安全」なのです。⁴

サウロはダマスコへ行く途中、よみがえり栄光に満ちたキリストにまみえました。後に、パウロと改名した彼は、真理の擁護者、また主の業に働く勇敢な宣教師として、復活された主を証あかししました。

コリントの聖徒たちに向かってパウロはこう宣言しました。

「キリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死に……

葬られ……聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえられ……

ケパに現れ、次に、十二人に現れ……

そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れ……

そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、

そして最後に、……わたしにも、現れたのである。」⁵

この神権時代に、これと同様の証が預言者ジョセフ・スミスによって雄々しく語られました。彼はシドニー・リグドンとともにこう証しています。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」⁶

これこそ、わたしたちを支える知識です。わたしたちを慰める真理です。そして悲しみに打ちひしがれた人を影から光へと導き出す確信なのです。それはすべての人が受けられるものです。

今日、何かを行う

命は何とはかなく、死は何と確かなものなのでしょう。わたしたちは自分がいつこの世を去るように求められるか分かりません。だからこそ、わたしはこう尋ねたいと思います。「わたしたちは今日をどのように過ごしていますか」と。もし明日のためだけに生きるなら、やがては、無為に過ごした昨日ばかりが残ることでしょう。「自分の人生を見直そうと考えてはいるが、最初の一步を踏み出すのは明日にしよう」と、ずっと言い続けてはいないでしょうか。そのような考えでは、明日は永遠に訪れません。そのために今日何かを行わないかぎり、そのような明日が来ることはないでしょう。歌い慣れた賛美歌はこのように教えています。

なすべき業ここにあり
その時は今あり
「いつかなす」と言いて時を
過ぎさず、今日なせ⁷

自分自身に次のように問いかけてみましょう。「わたしは今日何か良いことをしただろうか。」「助けを必要としている人に手を差し伸べただろうか。」そのような問いかけは、幸福を得るための原則であり、だれかに感謝の心をもたらすという満足感と内なる平安を得るための処方箋です。

自らをささげる機会には確かに無限にあります。すぐに失われてしまうものもあります。わたしたちには、喜ばせるべき心、伝えるべき思いやりの言葉、与えるべき贈り物、なすべき行い、そして救うべき人々が存在します。

「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである」⁸ ということを中心に留めておくならば、チャールズ・ディケンズの不朽の名作『クリスマス・カロール』の中でエベネーザ・スクルージに自分が失った機会を悲しげに語りかけたジェーコブ・マーレイの幽霊のように、つらい立場に身を置かなくて済むことでしょう。マーレイはこのように言いました。「いやしくも、それぞれの置



**もしわたしたちが
垂れている手を上げ、
苦しむ人に平安をもたらし、
主がなさったように与えるならば、
わたしたちは模範によって、
迷える者の道案内になることができるのです。**

かれた小さな範囲中で、いかなることのためであろうと、熱心に力を尽しているキリスト教的精神の持主であるならば、さまざまな有益なことをするために人間の生命は余りにも短か過ぎると思う筈だということを知らないのか。また、一人の人間が失った人生の機会はいかほど後悔しても取り返しはつかぬということを知らずにいるのだ。だが、私もそうだったのだ! おお! 私もそうだったのだ!

マーレイはさらに次のように言っています。「なぜわたしは気の毒な人たちをかまわずに通り過ぎたのだろう? 東の国の博士たちをみすばらしいあばらやへ導いて行ったあのありがたい星をなせ見上げなかったのだろう。その星に導かれて訪ねてやるべき貧しい家もあったらうに。」

皆さんも御存じのように、エベネーザ・スクルージは幸いにも後に良い変化を遂げました。わたしはスクルージのこの言葉が好きです。「わたしは今までのわたしとは違います。」⁹

ディケンズの『クリスマス・カロール』の話はどうしてこれほどまで愛されているのでしょうか。どうして今日でもいきいきとした作品なのでしょう。わたしはこの作品が、神から靈感を受けて書かれたものであると思っています。人の特質のうち、最良のものが引き出されています。そして希望を与えてくれます。そして変わろうという意欲を与えてくれます。わたしたちは、足を引っ張ろうとする道から離れ、心の中で歌いながら、星に従い、光に向かって歩むことができるのです。そして歩みを速め、勇気を増し、真理の光を浴びることができます。あるいは子供たちの笑い声をもっとはっきりと聞くこともできます。さらに嘆き悲しむ人の涙をぬぐうこともできるのです。そして死を迎える人に、永遠の命の約束を分かち合っで慰めることもできます。もしわたしたちが垂れている手を上げ、苦しむ人に平安をもたらし、主がなさったように与えるならば、わたしたちは模範によって、迷える者の道案内になることができるのです。

人々の心を満たす

命ははかなく、死は避けられないものなので、一日一日を精いっぱい生きなくてはなりません。

わたしたちはせっかくの機会を台なしにしてしまうことがよくあります。少し前のことですが、わたしはルイス・ディッキンソン・リッチの感動的な小説を読みました。作品には、この真

理がはっきりと描かれています。このように書かれていました。

「わたしの祖母にはウィルコックス夫人という宿敵がいました。祖母とウィルコックス夫人は、隣同士の家に嫁ぎました。二人の家は、彼女たちがそれから一生住むであろう小さな町の大通りに面していました。二人の間の争いが何によって引き起こされたのか、わたしには分かりませんし、30数年を経て、わたしが生まれたころになると、何が発端だったか彼女たちも覚えていなかったことでしょう。二人の争いはちょっとしたいさかいなどという生ぬるいものではありませんでした。まさに戦争そのものでした。……

町中、影響を受けないものなどありません。独立戦争、南北戦争、米西戦争をぐり抜けてきた築300年の教会も、祖母とウィルコックス夫人による『婦人会会長戦争奪戦』のため、崩壊寸前となりました。そのときは祖母に軍配が上がりましたが、無意味な勝利でした。ウィルコックス夫人は会長の座を逃したため、憤慨して[会]を脱退してしまいました。敵を屈服させられないのであれば、会に所属することに一体何の楽しみがあるのでしょうか。そして今度はウィルコックス夫人が『公共図書館の戦い』で勝利を取めました。夫人は、わたしのフィリーおばさんではなく、自分のめいのジャートルードを司書に任命することができたのです。ジャートルードが着任したその日から、祖母は図書館の本を読まなくなりました。突然、図書館の本を『汚らしい』と言うようになったのです。そして『高校の戦い』では両者引き分けとなりました。ウィルコックス夫人は校長を解雇しようと奮闘し、祖母は校長に終身在職権を与えようと手を尽くしていましたが、校長は決着が着く前に転職してしまいました。

子供のとき祖母を訪ねる楽しみの一つは、こっけいな顔をしてウィルコックス夫人の孫たちをからかうことでした。忘れもしないあの日、わたしたちはウィルコックス家の雨水用のたるに蛇へびを入れたのです。祖母は口では反対していましたが、内心は暗黙の同意をしていることが分かりました。

まさかわたしたちだけがそんなことをしていたなんて思わないでください。ウィルコックス夫人にも孫がいたのですから。祖母もまた、いたずらの対象にされていました。洗濯日和の日は、決まってなぜか洗濯用ロープが切れて、落ちた洗濯物が泥まみれになっているのです。

もしボストン新聞に家庭欄がなかったのなら、祖母はこんなにも長く続いたもめ事に耐えられたかどうか、わたしには分かりません。この家庭欄は名案でした。よくある料理のアイデアや掃除のアドバイスだけではなく、読者のための手紙コーナーが掲載されていました。問題があったり、ただ愚痴をこぼしたりしたければ、『アービュタス』[訳注——ツツジ科

の常緑樹)といったすてきな名前で新聞社に手紙を書くのです。祖母はその名前をペンネームに使っていました。そうすれば、似たような問題を持ったほかの女性が『匿名希望』や『悪妻』などの名前を使って投書し、自分はそのような場合にどうしたか教えてくれるのです。問題が解決してからも、女性たちはその後何年間も新聞のコラム上に、子供のこと、保存食作りのこと、新調したダイニングセットのことなどを書いて、文通を続けます。祖母もそうしていました。祖母と『かもめ』というペンネームの女性は、25年以上文通を続けました。『かもめ』さんは祖母の親友でした。

わたしが16歳ぐらいのとき、ウィルコックス夫人が亡くなりました。小さな町では、どんなに隣の家族を嫌っていたと、遺族のためにどんな手伝いができるか見に行きに行きあげることが、しきりになっていました。何でも手伝うと言ったのが本気であることを示すために、祖母はエプロンを着けて、芝生を越えてウィルコックス家へ出向きました。ウィルコックス家の娘たちは祖母に、すでにちり一つない応接間を、葬儀に備え

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたがたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 回復された真理の光がどのように死の暗闇くらやみを追いやるかについて、家族と話し合う。本文の中で復活について教えている箇所を読む。これらの真理は悲しんでいる人にどのように平安と慰めをもたらすだろうか。

2. 「今日、何かを行う」の項にある幸福しよほうせんの処方箋を示す。賛美歌「今日われ善きことせしか」を歌うかまたは歌詞を読む。この処方箋がなぜ幸福をもたらすと思うか、家族に質問する。どのようなことをすれば、人々に感謝してもらえるだろうか。

3. 人が人生の終わりに振り返ることのできる楽しい思い出を家族に挙げてもらう。ルイス・ディッキンソン・リッチの話とこの記事の最終段落を読む。今自分にとって最も重要なものは何かについて小さな子供たちと話し合う。後悔することなく、充実した楽しい人生を送るように家族に勧める。

て掃除するようお願いしました。応接間のテーブルの上に、大きなスクラップブックがありました。スクラップブックには、祖母から『かもめ』さんあての、そして『かもめ』さんから祖母あての手紙が、きれいにはられていたのです。二人とも知らなかったとはいえ、祖母の最大の敵が、実は親友だったのです。わたしはそのとき初めて祖母が泣くのを見ました。その当時はどうして泣いていたのか、はっきり分かりませんが、今振り返ると分かります。もう決して取り戻すことのできない、無駄に費やされた年月を思って泣いていたのです。』¹⁰

決心して、今日から愛で心を満たしましょう。孤独な人、気落ちしている人、様々な理由で苦しんでいる人に手を差し伸べるために、2マイル行きましょう。「悲しむ人を励まし、だれかを喜ばせ」¹¹しましょう。最後の裁きの場で、大きな後悔、やり残したことがないように、そして使徒パウロとともに「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」¹²と言えるように生きていきましょう。■

注

1. ヨハネ11：25-26
2. ヨハネ14：27
3. ルカ23：46
4. ミニー・ルイス・ハスキンス “The Gate of the Year,” *Masterpieces of Religious Verse*, ジェームズ・ダルトン・モリソン編 (1948年), 92で引用
5. 1コリント15：3-8
6. 教義と聖約76：22-24

7. ウィル・L・トンプソン「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番
8. モーサヤ2：17
9. (New York: Stewart, Tabori & Chang, 1990年), 34, 138
10. “Grandma and the Seagull,” *She Took to the Woods: A Biography and Selected Writings of Louise Dickinson Rich*, アリス・アレン(2000年), 211-213で引用
11. 『賛美歌』137番参照
12. 2テモテ4：7

〔訳注—本文中で引用されている『クリスマス・カロール』の訳は『クリスマス・カロール』村岡花子訳、新潮社刊、31から引用〕

スクラップブックには、祖母から「かもめ」さんあての、そして「かもめ」さんから祖母あての手紙が、きれいに
はられていたのです。二人とも知らなかった
とはいえ、祖母の最大の敵が、実は親友だったのです。



D・トッド・ クリストファーソン長老

主の僕しもべとなるように備えられた人



十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老

10代のころ、ニュージャージー州サマセットに住んでいたトッド・クリストファーソンは、ニューヨーク州パルマイラの近くで夏に行われるクモラの丘ページェントに2年続けて参加しました。1年目の公演中、トッド青年は以前のビショップの言葉を思い出しました。ビショップは、福音の証を「心に焼き付ける」まで、決してあきらめずに主に願あかしい求めるようにと言って、ワードの青少年を励ましていたのです。

神権指導者の言葉を真剣に受け止めたトッドは、自分の証について機会あるごとに祈っていました。そして、この回復の地であるパルマイラにおいて、トッドは確かな証を得るのは、この時、この場所しかないと感じました。

「ある夜、公演が終わってから、『聖なる森』へ一人で出かけて行きました」とトッドは回想します。「美しい夏の夜でした。靴を脱ぎ、森へ分け入り、祈り始めました。ほんとうに熱心に、1時間、あるいはもっと長く祈りました。しかし何も起こりませんでした。」

やがてトッドはあきらめて帰って行きました。すっかり意気消沈してしまいました。何が間違っていたのだろうか。天の御父はなぜ祈りにこたえてくださらなかったのだろうかと思いました。

2週間に及ぶページェントはあっという間に終わり、トッドはニュージャージー州の自宅に戻りました。祈りの答えが与えられたのは、それから約1か月後、寝室でモルモン書を読んでいたときのことです。

「尋ね求めるまでもなく証が得られました。言葉を伴うことのない証でしたが、モルモン書とジョセフ・スミスについて、非常に力強い霊的な確証が得られたのです。疑う余地のまったくない確証でした。

この経験を振り返ると、神がいつ、どこで、あるいはどのような方法で語りかけられるかについて





て、人が神に指図することはできないのだということがよく分ります。わたしたちはただ心を開き、神がふさわしいとされるときに、神が用意してくださったものを受け入れればよいのです。それは神の御心みこころに従って与えられるのです。

天の御父があの日パルマイラで、わたしの祈りにこたえてくださらなくてよかったと思っています。もし答えてくださっていたら、祈りの答え、あるいは証を得るには特別な場所を訪れなければならないと思込んでいたかもしれません。しかし、ジョセフ・スミスが預言者であったこと、あるいはモルモン書が真実であることを知るために、パルマイラまで巡礼の旅に出かける必要はありません。イエスがキリストであられることを知るためにエルサレムに詣もつでる必要もないのです。もし御父がニュージャージー州のサマセットにいるわたしの祈りにこたえてくださるなら、御父は、世界のあらゆる場所に住むあらゆる人の祈りにこたえることができになるのです。御父はわたしたちのことをとてもよく知っておられます。そして、あらゆる場所、あらゆる環境にある人の祈りにこたえてくださいます。」

この証を心に「焼き付け」たトッド・クリストファーソンは、主の王国で奉仕する人生に備えていったのです。

のどかな子供時代

デビッド・トッド・クリストファーソンは、1945年1月24日、ユタ州アメリカンフォークで、ポール・ビッカーリー・クリストファーソンと、妻ジーン・スウェンソン・クリストファーソンの間に生まれま

した。第2次世界大戦が終わろうとしていた当時、合衆国軍に所属していた父親は中国にいたため、トッドと母親は約18か月間、彼女の両親、ヘルガ・スウェンソン、アデナ・スウェンソンと生活を共にしました。以来トッドは母方の祖父母と親しくなります。この関係はトッドの生涯にきわめて大きな影響を与えることになりました。

トッドと4人の弟は、ユタ州のプレゼントグローブとリンドンで育ちました。自身の言葉によれば、長老は「のどか」で「健全な」子供時代を過ごし、自由に遊び、発明し、学ぶ時間を満喫したそうです。

長老はこう回想しています。「わたしたちは、非常に安定した幸福な家庭生活を過ごしました。父と母は、模範を通して教え、福音の原則に従って生活する方法を示してくれました。」

一方、両親は、息子が従順で明るい子供だったと話しています。「トッドはとてもいい子で、どのような人生を送りたいかを常に理解していました。弟たちの良い手本になっていました」と父親は話しています。

また、両親はトッドのことを、助けに必要な人がいればいつでも熱心に手を差し伸べる子供だったと回想しています。トッドが13歳のとき、癌がんを患った母親のジーンが治療の一環として大きな手術を受けました。病院で付き添っていたクリストファーソン長老の父親は、トッドが弟たちを集めて、母親のために祈っていたことを後で知りました。

手術は成功しましたが、クリストファーソン姉妹は家事が幾つかこなせなくなってしまいました。

前ページ—

ニューヨーク州

パルマイラで行われた

クモラの丘ページェントに参加した

10代のトッド・

クリストファーソン、

1962年。

上(左から)—

両親と

弟のグレッグ(右)と

ともに、1948年。

クリストファーソン家の

息子たち、ティム、トッド、

グレッグ、トム、ウェード、

祖父のヘルガ・

スウェンソンとともに、

1964年。

6歳のころのトッド。

クリストファーソン長老は、

「のどか」で「健全な」

子供時代を過ごした

と回想している。



上(左から)——
クリストファーソン長老(左)、
アルゼンチンのサルタ州で、
同僚のグレン・
ウィラードソン長老と
ともに、1965年。
バプテスマ会で、1968年。
次ページ(左から)——
結婚式を挙げた
クリストファーソン長老夫妻、
それぞれの両親とともに、
1968年。
息子トッド、
娘プリンとともに
イエス・キリストの
降誕劇を演じる
クリストファーソン長老、
1977年。
合衆国の200年祭を祝う
クリストファーソン家、
1976年。



トッドは母親が自家製のパンを焼くのが大好きなこと、また彼女にとって今後パンを焼くのがどれほど難しくなるかを知っていました。トッドは、祖母からパンの焼き方を教わり、大学への進学で家を離れるまでの数年間、家族のために欠かさずパンを焼いたのです。

新しい家、新しい経験

トッドが15歳ぐらいのとき、獣医だった父親の仕事の都合で、家族はニュージャージー州ニューブランズウィックに引っ越すことになりました。ユタ州リンドンはとても人口の少ない町だったので、たくさんの人が住むニュージャージー州に移り住むことは、クリストファーソン家族の全員にとって劇的な変化でした。たくさんの新しい場所、新しい人々、新しい機会に恵まれたその後の数年間は、成長期にあったトッドの人生にとって大切な期間となりました。

高校のクラスで教会員は自分だけでしたが、トッドは様々な文化や宗教を持つ人たちと友情を深め、親しくなりました。生涯にわたる友人や知人もできました。トッドは、友人の多くがそれぞれの信仰に対し、トッドと同じように強い思いを抱いていることを知りました。それを見たトッドも、これまでに自分が知った事柄について深く考え、熱心に祈るようになりました。こう語っています。「教会は単にすばらしいというだけではないと分かるようになりました。教会はきわめて大切なものだったのです。自分に与えられているものに感謝するようになりました。」

16年以上にわたって長老と同じ部屋を使っていた弟のグレッグ・クリストファーソンは次のように回想しています。「トッドはいつも霊的な事柄に関心を持ち、行動も模範的でした。」グレッグは兄が高校を卒業して数年後にあった

ことをこう話しました。とても優秀だったトッドの同級生が、伴侶と一緒に幼い子供をどう育てるべきかについて祈っていました。そんなとき、彼らの家を末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師が訪れました。彼は唯一の末日聖徒の同級生だったトッドがどれほど善良で高潔な人物だったかを思い出しました。それで宣教師を招き入れ、家族の全員が教会に加わったのです。

証をはぐくんでいたトッド青年は、クモラの丘ページェントの後の経験を通して確固とした証を得ました。その証は、ニュージャージステーク、ニューブランズウィックワードに集う同年代の末日聖徒の影響でさらに強くなります。彼らは霊的に強く、トッドにとっても大きな支えになりました。長老は彼らと「水曜日と日曜日に顔を合わせるのが待ち切れなかった」と話しています。

「教会はわたしたち家族にとって生活の中心でした。」長老はこう回想しています。「教会を通じて、家族のきずなが強まり、ワードの会員との関係が深まりました。」

アルゼンチンへの伝道

サマセットにあるフランクリン高校を卒業したクリストファーソン長老は、1年間ブリガム・ヤング大学に通った後、1964年9月からアルゼンチン北伝道部で専任宣教師として奉仕しました。長老は、伝道は人生に大きな影響を与えてくれたと考えています。ラテンアメリカの人々と文化を愛する思いは、今でも長老の人生の大きな部分を占めています。

伝道中、クリストファーソン長老は「二人の傑出した伝道部会長」から学びました。一人はロナルド・V・ストーン会長、もう一人は、十二使徒定員会会員としてともに奉仕することになったリチャード・G・スコット会長です。クリストファーソン長老は、二人の伝道部会長とその夫人たちが宣教師のために尽くしてくれたことを、深い

愛と感謝の念をもって思い起こしています。

スコット長老は当時のクリストファーソン長老について思い返し、「優れた宣教師であり、その献身ぶりと能力を見れば、その後の人生で並外れて重要な役割を担うことになることは明らかでした」と話しています。スコット長老は、若きクリストファーソン長老ほど規律正しく、従順で、勤勉な人は珍しかったと語り、それゆえ「同僚の一人一人にとって祝福となり、求道者と改宗者に愛される柔和な精神」を備えていたと述べています。

スコット長老は、特に記憶に残っている、ある経験を紹介してくれました。スコット会長はあるとき、自転車事故でスーツを台なしにし、手をけがしてしまったクリストファーソン長老を目にしました。それでもクリストファーソン長老は気にかける様子もなかったとスコット長老は語ります。「彼はどろを払い、自転車にまたがると、同僚とともに走りだしました。求道者との約束があったのです。」

大学と結婚

1966年12月、アルゼンチンから帰国したクリストファーソン長老はブリガム・ヤング大学に復学し、英語を研究しながら、学生自治会や学内競技会で活躍しました。

伝道から帰り、1学期が終わろうとしていたころ、キャンパスで一人のかわいらしい女性を見かけます。そのときデートを申し込むことはありませんでしたが、顔をよく覚えていて、数か月後に発行された大学の年鑑で彼女のことを探しました。

彼女の名前はキャシー・ジェacobと言いました。カリフォルニア州とユタ州に住んだことのある、魅力的で社交性のあ

る女性でした。翌年の秋、夏休みを終えて学校に戻ったトッドは共通の友人を通して彼女をデートに誘いました。

数か月がたち、二人はすっかり仲良しになっていました。愛をはぐくんでいった二人は翌1968年の春、5月28日にソルトレーク神殿で結婚しました。

クリストファーソン長老は語ります。「結婚したときから、キャシーが正しくてすばらしい女性であることは分かっていました。ただ、実際にどれほど優れた性格、特質、深い知恵、善良さを持ち合わせているかには気づいていませんでした。時間がたつにつれて、結婚当初に自分が理解していたよりもはるかに立派な女性であることが分かり、わたしにとってうれしい驚きとなっています。」

クリストファーソン長老夫妻の娘プリン・ナファーも、母親が善良な人物であったと話しています。「どこに住んでいたときも、とにかく母は人から愛されていました。実に創造的で、誠実で、底抜けに愉快な人です。」

有能な弁護士として

クリストファーソン長老夫妻は、二人そろって1969年にブリガム・ヤング大学を卒業しました。その後、クリストファーソン長老は法学位取得のためにデューク大学に進学します。1972年に同大学を卒業し、後にウォーターゲート事件の審理に携わることになるジョン・J・シリカ判事の法務書記として採用されました。ウォーターゲート事件を「合衆国史上最悪の政治スキャンダル」¹と評した『タイム』(Time)誌





は、シリカ判事を、その年のマン・オブ・ザ・イヤー(最も影響力のあった人)に選出しています。ウォーターゲート事件とそれに伴う裁判は、1973年から1974年にわたって合衆国内の新聞紙面ににぎわせました。

クリストファーソン長老は当初、法務書記として1年間働き、その後はワシントンD.C.にある有名な法律事務所で働く予定にしており、内定も得ていました。その法律事務所で働いた経験を持ち、現在地域七十人として奉仕しているラルフ・W・ハーディー長老は、あの大変なウォーターゲートのとき、シリカ判事が事務所の共同経営者に電話をかけこう言ったのを覚えています。「トッドをそちらに行かせるわけにはいかない。あまりにも貴重な人材だからだ。何でも話せる人間は彼しかいない。」結局、トッドはウォーターゲート訴訟の最後までシリカ判事を補佐することになりました。

ハーディー長老は、それからかなりの年月がたった1992年の出来事も覚えています。教会員ではない弁護士が事務所に入って来て、感慨深げな様子でこう言いました。「葬儀ミサに出てあれほどの感銘を受けたことはない。」それはシリカ判事の葬儀で、クリストファーソン長老は、判事の家族から葬儀で話をするように依頼されていたのです。長老は救いの計画について話したのです。

法務書記として働いた後、クリストファーソン長老は合衆国陸軍の現役任務に就き、さらには予備役も8年間務めました。予備役隊長としての責任も果たしました。

それから30年にわたって、クリストファーソン長老は有能な弁護士として活躍しました。最初はダウローンズPLLCという法律事務所働き、次に健康産業関連の組織や幾つかの銀行の顧問弁護士を務めました。七十人に召されたときには、ネーションズバンク社(現在のバンク・オブ・アメリカ)次席総合顧問弁護士を務めていました。長老の仕事の関係で、家族はワシントンD.C., テネシー州ナッシュビル, バージニア州ハーンドン, ノースカロライナ州シャーロットと移り住みました。合衆国東部で家族と過ごした日々の中で最もうれしかったのは「様々な環境に暮らし、それぞれに違う信仰を持つ善良な

人々との交わり」だったと話しています。長老は、ステーキ伝道部会長、ビショップ、ステーキ会長、そして地区代表を含む教会での奉仕に加えて、宗教を超えて交わる幾つかの地域奉仕グループにも参加しました。

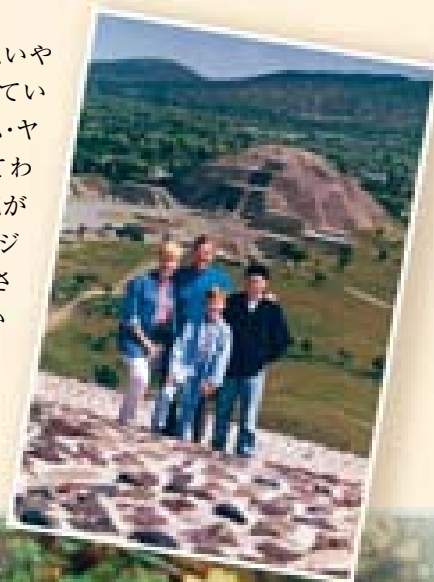
家族の思い出

クリストファーソン家には5人の子供がいます。トッド、ブリン、ピーター、ライアン、そしてマイケルです。8人の孫もいます。クリストファーソン家の子供たちは、両親が愛と思いやりに満ち、福音の原則を中心として自分たちを育ててくれたと語ります。家族の楽しい活動と、一人一人へのしつけがバランスよく行われたと回想しています。

ピーターは、多忙を極めていたころの父親とホームティーチングの同僚になったときのことを覚えています。クリストファーソン長老は、当時、企業の顧問弁護士として働きながらステーキ会長を務めていましたが、子供たちを教えるために時間を割いていました。ピーターはこう語ります。「限られた時間の中でも偉大なホームティーチャーとして奉仕していた父の忠実さに感銘を受けました。当時、担当家族に寝たきりの姉妹がいましたが、父はこの姉妹のことをとても気にかけていました。彼女がいつも聖餐を受けられるように、また、必要なことがあれば手伝えるようにしていました。」

ブリンも、父親がとても思いやりのある人だったことを覚えています。実家を離れてブリガム・ヤング大学に通うようになってわずか2日後、父親から寮に花が送られてきました。メッセージが添えてあり、簡潔にこう記されていました。「素晴らしい大学生活を。」

「父はわたしたちに大きな期待をかけていました





が、それでいて説教がましいところがまったくありませんでした。愛に満ちあふれた謙虚な人でした」と彼女は語っています。「父はとても幸せでした。そして、わたしたちも幸せになるよう願っていました。」

七十人としての奉仕

1993年4月3日、クリストファーソン長老は七十人第一定員会会員として支持されました。この責任を受け、長老は家族とメキシコシティーに移ります。そこでしばらくの間、メキシコ南地域の会長として奉仕しました。

1998年8月15日、クリストファーソン長老は七十人会長会の一員として召され、十二使徒定員会会員として召されるまでその責任を果たしました。この間、家族・教会歴史部の管理ディレクターを務めたほか、北アメリカ南東地域の管理も行っています。最近では、北アメリカ北西地域および北アメリカ西地域で責任を果たしていました。これまで受けてきた数々の責任を通して、世界中の末日聖徒と出会う機会に恵まれています。

わたしは七十人として、また七十人会長会でも、クリストファーソン長老とともに奉仕できたことに感謝しています。長老は非常に有能で、御霊の導きに敏感な人物であり、七十人定員会のすべての会員から敬愛されています。素晴らしいユーモアのセンスの持ち主だということはだれもが知るところです。ともに奉仕できて幸せです。

十二使徒定員会への召し

クリストファーソン長老は、トーマス・S・モンソン大管長から新しい召しを受けたとき、初め

は「不可能に思えた」と言います。

「これまでの生涯、わたしは十二使徒に感服し、従い、耳を傾けてきました。ですから、そのような人々にわたしが加わるということは不可能に思えます。」こうクリストファーソン長老は語っています。「深く思い巡らすと、責任に圧倒される思いがします。しかし、七十人定員会の長老たち、そして十二使徒定員会の会員とともに働いてきた15年間で、素晴らしい教師から学ぶことができました。」

クリストファーソン長老は、人は皆どなたに依存しているかを、臆することなく伝えていきます。それは、確固たる証を得ようとしていた10代のときに答えを与えてくださった御方です。長老はこう語ります。「わたしは祈りの力を心から信じています。わたしたちは、いつでも祈りに頼ることができます。時として祈ることしか残されていないときもありますが、祈りは常にわたしたちの必要を満たしてくれます。」

「どのような危機にあっても、どのような変化のときにも、どのような必要にあっても、常に祈りを通して主に求めることができました。主を信頼してきて、落胆したことは一度もありません。確かに、主の約束は今も有効です。この責任においても、主はわたしが必要とする助けを与えてくださるでしょう。」■

注

1. "Judge John J. Sirica: Standing Firm for the Primacy of Law," *Time*, 1974年1月7日付。
"http://www.time.com/time/magazine"
www.time.com/time/magazine で閲覧可能

前ページ(左から)——
ジョン・J・シリカ
合衆国連邦判事と
クリストファーソン長老夫妻、
クリストファーソン長老は
ウォーターゲート事件の
裁判で

シリカ判事の
法務書記を務めた。
クリストファーソン夫妻、
子供、孫とともに。
息子のライアン、
マイケルとともに、
メキシコで、1994年。

上(左から)——
七十人会長会の一員として、
1998年。
クリストファーソン
長老と姉妹、
福音を宣べ伝えるために
日本が奉獻された地で、
七十人の菊地良彦長老、
登志子夫人とともに。

パンと水以上のもの

教会機関誌

ライアン・カー

わ たしたちは毎週日曜日に聖餐^{せいさん}を受けます。しかし、この機会に頻繁に恵まれているために、聖餐を取ることを当たり前とってしまうことがあります。この神聖な儀式により深く感謝するにはどうしたらよいでしょうか。モンタナ州ボーズマンステーキのベルグラード第2ワードに集う若い男性の例を紹介しましょう。

ハルグレン家族のブレックとジェーク、ロムレル家族のマイケルとエバンは救い主^{あがな}を覚え、救い主の贖い^{あがな}の効力が生活に及ぶよう願っています。聖餐を受けることで、彼らも、そしてわたしたち一人一人もそうすることができます。聖餐を受けることは救い主を礼拝し、より良い自分になるための機会です。彼らは聖餐の儀式を行いながら、人に奉仕するために神権を使っているのです。

聖餐を敬う

この若い男性たちはまた、聖餐がワードの会員にとって大切なものであることを知っています。そして神権の責任を真剣に受け止めています。聖餐をワードの会員に配るとき、彼らは何について考えているのでしょうか。奉仕の機会に感謝する16歳のジェークはこう話しています。「自分が主を代表しているということを実感します。」

18歳になる兄のブレックはこう話しています。「祭司として、定められたとおりに儀式を進められるよう気を配っています。同時に贖罪^{しよくざい}についても考えるように努めています。毎週、自分の罪を悔い改め、1週間の新たなスタートを切り、必要な課題に取り組むという、とても大切な機会となっています。霊的に高められる、すばらしい時間です。」

せいさん
聖餐会
みたま
もっと御霊を
感じるには
どうすれば
よいでしょうか。

あがな
贖いの象徴



「聖餐のトレイを持った手を会員に差し出すアロン神権者は、ただ単に聖餐を配っているわけではありません。会員を神聖な贖いの象徴である聖餐にあずから

せ、その霊を天へと引き上げているのです。」

管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリンビショップ
『神権の奇跡』『リアホナ』2004年4月号, 28

17歳のマイケルも救い主について考えています。「わたしにはイエス・キリストの贖いについて、特に強い証^{あかし}があります。してしまった間違い^{ちがひ}について考えますが、悔い改めるなら主の贖いのおかげで救しを受けられることを知っています。聖餐は毎週、贖いについて思い起こさせてくれます。」

ふさわしくある

ベルグランド第2ワードの若い男性は、神権者としてふさわしくあることの大切さを理解しています。神権を持つことは特権であるとブレックは話しています。「すばらしい機会です。おかげで1週間ずっと、間違っ^{まちが}たことをしないよう気をつけることができます。自分のためになっています。」

15歳のエバンはこう話しています。「自分は神権者だと思^{おも}うと、ふさわしい状態で聖餐の儀式を行えるよう、一週間ずっと、正義を選ぶことができます。」

敬うことを学ぶ

この若い男性たちは、聖餐を敬うことを子供のころに学びました。聖餐が配られている間、注意を向けるように両親から教わりました。この気持ちは10代になっても続いています。マイケルはこう話します。「聖餐が自分にとってどれほど大切か、言葉ではなかなか表現できません。聖餐は主の体と血を表しています。わたしたちは主の御名^{のみな}を受けます。出て行って主の福音を宣べ伝え、模範^{もはん}になろうと努力します。主がおられなければ、決して天の御父のみもとに帰ることはできません。聖餐はそのことを思い出させてくれるのです。」

彼らはまた、自分の兄たちや、ほかのアロン神権者が神権の義務を果たすのを見ながら聖餐を敬うことを学びました。例えばエバンは、現在ブラジルで伝道している兄が聖餐や神権、そのほか福音に関することについて話してくれたことを覚えています。

ブレックも、兄たちが模範だったと話します。「兄たちが聖餐の準備をするのを、尊敬のまなざしで見ました。」

マイケルは母親から教わったことについて考えています。「母はいつも、わたしたちが教会へ行くいちばんの理由は聖餐だと言っています。聖餐は贖いを思い起こさせてくれます。」

イエス・キリストの贖罪は、すべての人類家族に影響を与える奉仕の業でした。救い主ほどの奉仕はできないかもしれ





**聖餐の準備と片付けをする
ハルグレン家族(上)と
ロムレル家族の神権者たち。
救い主について
証を持つ彼らは、
敬虔な態度で
奉仕しています。**

ませんが、アロン神権者も、会員が聖餐を受ける手助けをし、聖餐を敬い、聖餐を受けるにふさわしい生活をするので、ワードや支部で奉仕することができるのです。■

服装で敬虔さを示す

ベルグラー第2ワードの若い男性が白いワイシャツを着てネクタイをするのはなぜでしょうか。それは主の聖餐に対する敬意を示すためです。エバン・ロムレルはこう言っています。「服装は自分の気持ちを人に伝えます。だらしなかつこうは、つまり、自分がいいかげんな人間であることを伝えているのです。」

ワードの会員が救い主に思いをはせるじゃまをしたくないという思いから、彼らは見ている気持ちの良い服装をしたいと願っています。ジェーク・ハルグレ

ンは言います。「聖餐を受ける人が、汚れたシャツをズボンから出している執事や教師を見たら、敬虔な気持ちがなくなってしまいます。その若い男性は聖餐についてどう思っているか疑問に感じるかもしれません。きちんとした服装をすることで、聖餐を敬う気持ちを表すことができます。」



霊のごちそう



(ヨハネ4:14, 6:35参照)

慎み深さ

——主への敬意

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老



自分が何者であるか、
すなわち自分が
神の子であることを
知るとき、
また外見が
内面の靈性に、
そして最終的には
行動に
影響を与えることを
理解すると、
わたしたちは
慎み深い服装と
言葉遣いをすることで、
神、自分自身、
周囲の人に
敬意を表すように
なります。

教会の中央幹部や中央補助組織の指導者として世界中を訪問すると、世の中がますます多くのことに無関心で、形式にとらわれなくなっていることがよく分かります。この傾向は様々な分野で見られますが、とりわけ服装において顕著です。また、このことは一部の教会員にも当てはまります。

形式を重んじないこのような風潮の一因は、無頓着さにあるかもしれません。理解の欠如、または正しい模範がないこともその要因かもしれません。カジュアルな服装が普及してから2、3世代が過ぎた今、ふさわしく慎み深い服装の模範を親に示してもらえなかった人もいるでしょう。一般的には、大衆文化もあまり良い模範となっていません。服装の流行の乱れもこれに起因しているでしょう。今日の市場では慎み深い衣類を買うのも難しいからです。

こうした現状や課題を頭に入れたうえで、わたしは、天の御父を敬い、主と交わした聖約、特に慎み深さやふさわしい服装に関する聖約を守ることの必要性に焦点を当てて話します。

慎み深さの原則

一部の末日聖徒は慎み深さのことを、教会にある伝統の一つ、あるいは保守的で厳格な習慣から発展した考え方だと思っているかもしれ

ません。慎み深さは単なる文化ではありません。慎み深さはあらゆる文化と世代に当てはまる福音の原則です。事実、御霊を受けるふさわしさを保つうえで慎み深さは欠かすことができません。慎み深くあることは謙遜さにつながり、謙遜であることによって御霊を招くのです。

当然ながら、慎み深さは新しい概念ではありません。これはエデンの園でアダムとエバに教えられました。「主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。」(創世3:21。モーセ4:27も参照) アダムとエバのように、わたしたちは、自分の体が神にかたどって造られており、それゆえ神聖であることを教えられています。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

……神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)

わたしたちの体は霊が宿る宮です。さらに言えば、人を神のもとから死すべき現世に招き入れるための手段です。体が賜物であること^{たまもの}を認識し、体のおかげでどのような目的を果たすことができるのかを理解すると、わたしたちは行動や服装によって体を守り、尊ぶようになります。

日常生活の中で、ショートパンツやミニスカート、体に密着する衣服、おなかの見えるシャツ、そのほか露出度の高い、品のない衣服を着用することはふさわしくありません。若い男性と若い女性を含めて、男性も女性も、肩が見えない服装をするべきです。また、えりぐりが開きすぎている服、そのほか、どのような点でも露出度の高い服装を避けるべきです。体にぴったりしたズボンやシャツ、過度にたるんだ服、しわだらけの衣服、だらしく乱れた髪型はふさわしくありません。わたしたちは皆、極端な服装、髪型、そのほか極端な身だしなみを避けるべきです。だらしないかっこうや必要以上にカジュアルな服装を避け、常にきちんとした、清潔な身なりでいるべきです。¹

慎み深さは、思いと行いの両面において、清さと純潔を保つうえで欠かせません。慎み深さはわたしたちの人格の中心です。慎み深くあることで、正しい思い、行動、決断をするために必要な影響を受けられるからです。衣服は体を覆うためのものではありません。どのような服装をするかにより、自分がどのような人間で、この現世と、その後続く永遠の来世において、どうなりたいのかを示しているのです。

教会の集会のための慎み深い服装

教会の集会に出席する目的は、天の御父とその御子イエス・キリストを礼拝することです。服装は御二方への尊敬の念を反映したものであるべきです。人の注目を引くための服装はしません。そのような服装は、ほかの人が礼拝することを妨げ、御霊を退けてしまいます。

主の宮で礼拝するための服装や準備について子供に教えるのは親の責任です。母親も父親も、服装に特に気をつけることにより、身なりや振る舞いで慎み深さと敬虔さを示すなら、子供の模範になることができます。

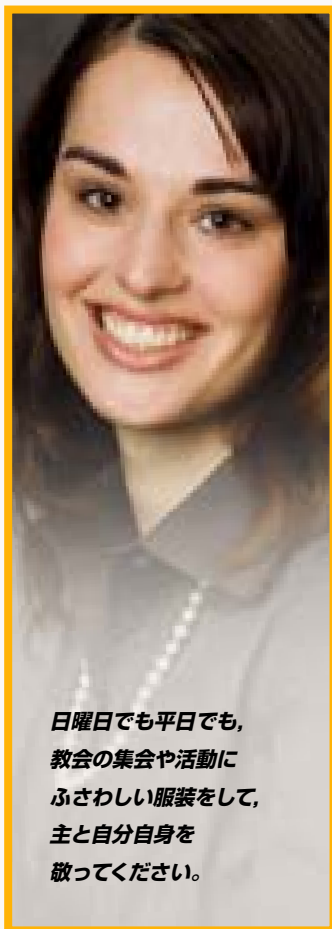
幼かったころ、母は「よそ行きの服」、つまり一番の服を着て教会に行くように教えてくれました。皆さんはどのように教会に行く準備をしていますか。鏡を見たり、家族に身なりを

確認してもらったりする時間を取っているでしょうか。

日曜日でも平日でも、教会の集会や活動にふさわしい服装をして、主と自分自身を敬ってください。どのような服装がふさわしいか分からない場合は指導者に相談しましょう。

神殿参入のための慎み深い服装

主の宮に参入する備えをして、神殿に向かって自分を思い浮かべてください。ビーチサンダルにジーンズ、Tシャツ姿でぼさぼさの髪をしているでしょうか。もちろんそんなことはありません。どのような種類のも



日曜日でも平日でも、
教会の集会や活動に
ふさわしい服装をして、
主と自分自身を
敬ってください。



のであっても、普段着で神殿に行くことは正しいでしょうか。主の宮に参入するときはよそ行きの服を着て行くべきではないでしょうか。

次に神殿に参入するときは、建物に入る前に神殿の庭を眺めてみてください。神殿が美しい植物、周りのものを映す池、そのほかの美しいものに囲まれているのはなぜか考えたことがありますか。これらは神殿の神聖さを外側でも表し、その雰囲気伝えることで、参入者を神殿で受ける神聖な儀式に備えさせているのです。大都市の中心街にある神殿でさえも、外観は周辺の建物とは一線を画しています。



**どのような服装をするかは、
神殿の儀式と永遠の聖約に
正しく敬意を払っているか、
また儀式を受け、
聖約を交わす
備えができていないかを
映し出しているのです。**

わたしたちの服装も同じように大切です。服装によって、自分の体を「美しく整え」、宮としてささげることができます。神殿の庭が神殿内で執り行われる儀式の神聖さと敬虔さを

表現しているのと同じように、わたしたちの服装は内なる美しさと清さを表しています。どのような服装をするかは、神殿の儀式と永遠の聖約に正しく敬意を払っているか、また儀式を受け、聖約を交わす備えができていないかを映し出しているのです。

有名なおとぎ話の主人公シンデレラは、城の舞踏会に見事なドレスを着て行きました。ガラスの靴一つをとっても、舞踏会がどれほど大きな出来事だったかが分かります。シンデレラが家事をするときのいつもの服で登場することなど考えられません。事実、ふさわしくない普段着で舞踏会に現れた人はいませんでした。だれもが舞踏会のため、優雅に装っていたのです。

人生の中で結婚式ほど意義深い出来事はありません。結婚式は人生で最も神聖な出来事の一つとなるでしょう。皆さんが聖なる神殿、すなわち地上において最も神聖な天の御父の宮で結婚できるよう願っています。そのときに交わす聖約の本質を真に理解していれば、服装にもその理解が表れることでしょう。花嫁になる皆さんは、神殿のガーメントを着用するのにふさわしい身ごろ〔訳注——衣服の胴体の部分、おもに首からウエスト、腰付近を覆う部分の名称〕とそでのある白い神殿衣を選ぶでしょう。結び固めの儀式の備えとして、

エンダウメントの儀式を受け、聖約を交わしているからです。花婿になる皆さん。皆さんは慎み深く清潔な服装と身なりをするでしょう。神殿の中で、しわだらけのシャツを着たり、ズボンをだらしくはいたりしはしません。

その日、皆さんは天の御父と神聖な聖約を交わします。神の前の聖壇において敬虔にひざまずくとき、皆さんは最高の姿でいたいと思うでしょう。

両親の皆さん、魔法使いの妖精がシンデレラの準備を手伝ったように、皆さんは息子や娘の準備を手伝うことができ

ます。将来交わす聖約の大切さを理解できるよう子供たちを助けてください。バプテスマをはじめとする数々の聖約を尊ぶことは、自身のひとなり、また言動、聴く音楽、服装を含めた行動に影響を及ぼします。聖約を交わして守るとき、わたしたちは世を離れて神の王国に入ります。わたしたちは身なりでそれを示すべきです。

結婚のためであろうと、エンダウメントを受けたり、死者のための業を行ったりするためであろうと、神殿に参入する前には少し時間を取って自問してください。「今日、主がこの神殿にいらっしゃるとしたら、わたしはどのような服装をするだろうか。どのような姿で主の前に出て行きたいだろうか。」もちろん答えは明白です。見た目も心も最高の自分でありたいと思うでしょう。

日曜日に地元の集会所で教会に出席するときにも同じように自問してください。集会所で、皆さんは聖餐せいさんを受けることを通してバプテスマの聖約を新たにしているのです。皆さんが足を運んでいるのは、主を礼拝するために奉献された主の家であることを覚えていてください。

身だしなみ——わたしたちが送るメッセージ

演劇を見ているとします。道化師のかっこうをして登場した役者が、主役としてシリアスな演技を始めたとしたらどうでしょうか。役柄に合っていない、衣装か配役を間違えていると思うのではないのでしょうか。

さて、自分自身の内面にまったくそぐわない衣服を着て、社会で人と接したり教会に來たりすることがどれほど不適切か考えてみてください。外見や振る舞いは周りへのメッセージになります。わたしたちはどのようなメッセージを伝えているのでしょうか。自分が神の子であることを伝えているのでしょうか。教会や神殿へ行くときは、礼拝の準備が整っていること、そして御霊を招き、常に御霊をはんりよ伴侶とできるよう、精神的にも靈的にも準備ができていることを服装で示すことが大切です。

何年も前、父親、また教会のビショップの立場から、若人が喜んで突飛な色の服を着たり、挑発的なファッションをしたりする理由が理解できませんでした。彼らは自分たちが、慎重深く控えめな服装の標準や伝統には従わないということを「公然と」示しているのです。しかしわたしが気づいたのは、皮肉にも若人が風変わりな服装に固執する裏には、仲間の言うことに従い、仲間に合わせなければならないという強いプレッシャーがあったということです。それは一般社会が若人に求める期待よりもはるかに大きいのです。

人目を引くために装うとき、御霊を招き、御霊とともにいることはできません。世の関心を引く服装をすると、自分の行動が変わってしまいます。それ以上に、どのような服装をするかで、周りの人が皆さんにどう接するかが変わってくるのです。

宣教師がスカートとブラウスや、スーツにワイシャツとネクタイという控えめな服装をするのはなぜでしょうか。もし宣教師がぼさぼさの髪形をして、ジーンズ姿でビーチサンダルを履き、品のない言葉が書かれたTシャツを着ていたら人は何と言うのでしょうか。「この人はほんとうに神を代表しているのだろうか」と思うかもしれません。そのような宣教師と人生の目的や福音の回復について真剣に話したいと望む人はいないでしょう。

もちろん、いつも宣教師のような服装をしなければならないというわけではありません。節度をわきまえたカジュアルな服装が適切な場面も確かにあります。わたしが言いたいのは、どのような服装をするかで、周りの人がわたしたちにどう接するかが変わることに、また、服装によってわたしたちは自分の心と霊が何を目指しているのかも示しているということです。

内側にある気持ちは外側に表れます。わたしたちは、態度、言葉遣い、服装によって自身や人に対して愛と敬意を示します。不適切

聖 約を
交わして
王 守るとき、
わたしたちは
世を離れて
神の王国に入ります。
わたしたちは
身なりで
それを示すべきです。

服装によって
わたしたちは、
自分の
心と霊が
何を
目指しているのかを
示しています。

に注目を集めることのない話し方、服装、振る舞いをする^{こと}で、教会の指導者、そしてワードや支部の会員に愛と敬意を示します。挑発的で必要以上に^{だけ}た言葉遣い、服装、振る舞いを避ける^{こと}で、友人や同僚に愛と敬意を示します。そして、^{たが}い深い服装と言動を通して主に愛と敬意を表すのです。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

「神の武具」で身を固める

自分が何者であるか、すなわち自分が神の子であることを知るとき、また外見が内面の靈性に、そして最終的には行動に影響を与えることを理解すると、わたしたちは^{たが}い深い服装と言葉遣いをする^{こと}で、神、自分自身、周囲の人に敬意を表すようになります。

画家であった父は、わたしが少年だったときにこのことを理解できるよう助けてくれました。父は武具を着けた騎士を描き、聖文にある大切な「神の武具」の一つ一つを示してくれました(エペソ6:11-17; 教義と聖約27:15-18参照)。寝室に飾ったその絵は、福音の原則を守り、忠実であり続けるために何をすればよいかを思い出させてくれました。

わたしたちは神の武具で「身を固める」べきですが、同じように自分と人を守るために、衣服で「身を固め」なければなりません。^{たが}い深い衣服に身を包み、また^{あわ}いれみ、親切、謙遜、忍耐、慈愛といった^{たが}いましい行動をする^{こと}で、

常に御霊を伴侶とし、周囲の人により影響を及ぼすことができます(コロサイ3:12, 14参照)。

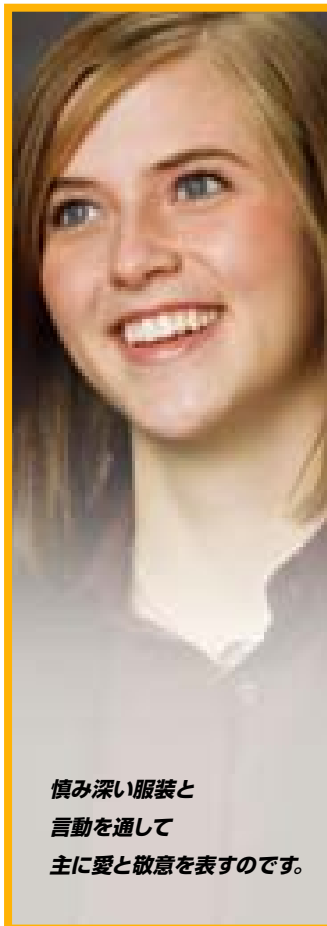
わたしたちは神の王国で聖徒となる決意ができていますでしょうか。それとも、世の中の方法に従う^{こと}の方が心地良いでしょうか。どのような服装をするかは、戒めに従順でありたいという気持ち、そして聖約を守りたいという決意にやがて大きな影響を与えるようになります。

^{たが}い深い服装をする^{こと}で、日常生活でどのような態度を執り、振る舞うべきかが分かるようになります。服装は、やがてどのような友達や同僚と付き合うかさえも決めてしまうかもしれません。それは、わたしたちが祝福を受けるにふさわしい生活をするかどうかにも影響を及ぼすでしょう。すなわち、この世と永遠にわたって幸福になるという祝福にふさわしい生活ができるかが決まってしまうのです。

聖約を守れるよう、また教会に出席し、神殿に参入し、日々の生活を送るときに^{たが}い深い服装と行いができるよう、心から祈っています。そうするときに、自分や両親、教会の指導者、そして人々を敬い、天の御父に敬意を示し、御霊を常に伴侶とするようになるのです。■

注

1. 「若人の強さのために——神への務めを果たす」 「服装と外見」の項参照



**慎み深い服装と
言動を通して
主に愛と敬意を表すのです。**



神の武具

「救^{すくい}のかぶと」は
正しい思考, 知性, 思いを守ります。

「正義の胸当」は
心と霊を守り,
常に御霊^{みたま}を伴侶^{はんりよ}とできるように
助けてくれます。

「真理の帯を腰にしめ」ることは
信仰を築き, 証^{あかし}をはぐくむ
土台となります。

「御霊の剣」は
悪を克服するための
神の言葉であり,
人生の道を照らす
光と真理を与えてくれます。

「信仰のたて」は
敵対する者の火の矢に
耐えられるように助けてくれます。

聖文を読み研究して
「平和の福音の備えを
足にはく」ことは,
神の律法, 儀式, 戒め, 聖約に
従順になるのを助けてくれます。

—ロバート・D・ヘイルズ長老

死の時にあって

慰めを得る

預言者ジョセフ・スミスは、
愛する人が世を去るときに、
わたしたちは救いの計画によって
慰めを得ることができることを知っていました。

ジョセフ・スミスは生前、とても親しかった多くの親族や友人の死に
直面しました。その中には父親、6人の子供、3人の兄弟もいました。
しかしジョセフはまた、死後の生活に関して受けた多くの啓示により、偉大な
慰めを得たのです。このテーマに関するジョセフの教えを紹介します。

死とは一時的な別れである

「これらの悲しんでいる人々に向けて話をしているわけですが、彼らは一体何を失ったのでしょうか。彼らの親戚や友人は、少しの間肉体から離れているにすぎないのです。神とともにいた彼らの霊は、言ってみれば、ほんのわずかの間だけ土の幕屋を離れたのです。そして今はある場所において、地上のわたしたちと同じように、ともに語り合っているのです。」
「復活の朝に友人たちに会えるという望みがあるので、心が励まされ、人生の諸悪に堪える力が得られます。」

幼い子供の死

「わたしは……このテーマについて思い巡らし、幼児たち、罪のない子供たち……が、わたしたちから取り去られるのはなぜかを問うてきました。……主は多くの人々を、幼児さえも取り去られますが、それは彼らが人のねたみやこの世の悲しみや悪事から逃れられるようにするためなのです。彼らは地上に住むにはあまりに純粋で、あまりに愛らしいのです。ですから、もし正しい考えを取るならば、わたしたちは悲しむよりも、喜ぶべきです。彼らは悪から救い出されているのであり、わたしたちはすぐに彼らと再会することになるからです。」

「子供たちは……死んだときと同じ有様で確かによみがえります。わたしたちはそこで、同じ栄光を持つ愛らしい幼児たち——日の栄えの栄光のうちに同じ愛らしさを持つ幼児たちを歓呼して迎えることができるのです。」

神を信頼する

「地上に生き長らえて……若い人々が、若い盛りに取り去られるのを目にするのは、わたしにとってつらいことです。……ほんとうに、これらの事柄を甘んじて受けるのは難しいことです。……それでもわたしは、わたしたちが穏やかにしているべきことを知っています。それが神の御心であることを知り、神の御心に従わなければならないことも知っています。すべてが正しいことなのです。」

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』
174, 176-179から

姉妹たち一人一人は 天の両親から愛されている娘であり、 神聖な行く末を受け継いでいる



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を教えてください。その教義について証してください。あなたが

教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

皆さんは、約束された大切な子供です。主の律法と戒めを守り、主の御声に耳を傾けるなら、主は皆さんに誉れと良き名と栄えとを与えて、すべての国民に勝るものとする約束されました。」「[高貴な生得権]『リアホナ』2006年5月号, 106-107)

大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト管長(1920-2007年)

—「神の娘であるとの確信が自分は価値ある存在であるとの安心感を与えてくれるのです。つまり、キリストの癒しの力によって得た強さが、信仰と安らぎをもって心痛やチャレンジに立ち向かう助けを与えてくれるのです。」「[神の娘とは何か]『リアホナ』2000年1月号, 122)

ロレンツ・スノー大管長(1814-1901年)

—「わたしたちは自分が天の御父の子供であり、霊の体においては、御父と同じ素質、力、能力を備えていると信じています。しかし未熟であるがゆえに、わたしたちは受けた原則を心に留め、一定の経験や試練を通してそれらの素質、力、能力を養い、改善していかなければなりません。」「(“Discourse,” *Deseret News*, 1872年1月24日付, 597)

どうすれば自分の神聖な行く末を理解し、達成できるでしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)—「皆さんは

自分という存在が永遠のものであり、独自の個性を持っていることを教えている福音の真理を深く味わう必要があります。天の御父が皆さんに対して抱いておられる完全な愛と、個人個人に対して認めておられる価値を、皆さんはもっともっと感じる必要があります。特に(静寂の中に独りでそのような不安を抱き、)疑問を感じ、途方に暮れてしまいそうなときに、これらの偉大な真理について深く考えてください。」「([歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール]2006年, 222)

ローマ8:16-17—「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老

—「わたしたちはそれぞれ自分なりの方法で創造者となる必要があります。神を信じる信仰、主イエス・キリストを信じる信仰、主の教会を信じる信仰を一人一人が築くのです。家族を築き、聖なる神殿で結び固めを受ける必要があります。教会と地上における神の王国を築く必要があります。わたしたちは自分の持つ神聖な行く末、すなわち栄光と不死不滅と永遠の命を受けるために備えなければなりません。これらの神聖な祝福はすべて、忠実であるならばわたしたちのものとなるのです。」「([創造]『リアホナ』2000年7月号, 104参照)■



天の両親から愛されている娘であるとはどういう意味でしょうか。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック—「皆さん〔は〕文字どおり神の霊の娘であり、『昇栄した両親の子供』、神の属性と永遠の行く末を持つ存在……です。皆さんは霊の世界で、天の両親から最初の教えを受けました。そして『試し』を受けるために地上へ送られて来たのです。……」

「教会に来なくなってしまった 友達が何人かいます。 彼らが教会に戻って来るために、 わたしは何をしてあげられるでしょうか。」

新 会員は皆、教会の中で友人を持ち、教会の割り当てを受け、「神の善い言葉」で養われる必要があります(モロナイ6:4)。¹ 教会から離れてしまったあなたの友達は最近バプテスマを受けた改宗者ではないかもしれませんが、これらの3つの事柄は役に立つでしょう。

また、助けを祈り求めるようにしてください。モルモン書を読むと、福音に立ち返る様子を描いた最も力強い話の中には、祈りがきっかけとなったものがあります(モーサヤ27:14参照)。

あなたが友達のことを大切に思っていることを伝え、模範となりましょう。福音の標準に従って生活することが、幸せになるためのすばらしい方法であることを示してください(モーサヤ2:41参照)。

最後に、あきらめないでください。主は選択の自由を尊重し、備えができたときにわたしたちが主のもとへ行くことをお許しになります。ある人はほかの人より時間がかかるかもしれませんが、しかし、どれほど時間がかかっても、あなたは価値ある努力を払っているのです。

友達が教会に戻るのを助けることで、あなたは救い主の模範に従っています。主は御自身のもとに来て、さらに福音にふさわしく生活し、自分の可能性を最大限に発揮するよう、愛と哀れみをもって人々を招かれました。

注

1. ゴードン・B・シンクレー「完全な希望の輝き」『リアホナ』2006年10月号、4-5参照



福音について話す

親友が教会に来なくなり、とても心配しました。彼女の親しい友人がその直前に亡くなっていて、疑いを感じ始めていたということが分かりました。ある日、数人の教会員の女の子が参加するパーティーに彼女を誘いました。教会のことを一度でも話題にすることを目標にしました。みんなが帰った後、二人で教会の様々な事柄について話し合いました。話そうとは思ってもいなかったことについても話しました。自分のできることをすれば、あとは主が補ってくださることを知りました。わたしたちがしなければならないことは、口を開くことだけなのです(教義と聖約28:16参照)。

アメリカ合衆国、ワシントン州、レベッカ・T、16歳



友達のために祈る

その友達の家を訪れたり関心を示したりすることは大いに役立ちます。教会の活動に誘ってください。天の御父によく祈ってください。友達が教会に戻る助けをするうえで最良の方法が分かるよう主に尋ね、友達のために祈り、彼らの心に変化が生じて、キリストに従いたいという望みが罪深い望みに取って代わるようお願い求めます。模範を示し、福音は幸福をもたらすということを示してください。

メキシコ、ヌエボレオン州、マリル・P、17歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



あかし 証を分かち合う

わたしなら、教会に来ない理由をまず知りたと思います。それから、友達を夕食や家庭の夕べ、また教会の活動などにも誘います。同時に、天の御父がどれほど彼らを愛しておられるかを知ってもらうために、聖句を分かち合い、教会に誘います。また、この教会が真実であり、天の御父のもとに戻るとともに住むための唯一の道であることを証します。

トンガ・トンガタブ
ウィリアム・V, 20歳



質問に答える

友達を教会に連れ戻すのは難しいことです。教会を離れる理由は様々です。教会に来ない理由について友達と話すべきです。また、教会に来ない原因となっているような疑問への答えを、友達が見つかるように助けることもできます。そして、教会で皆がどれほど寂しく思っているかを知らせてください。教会に来てくれたときには、愛され歓迎されていると感じられるようにしましょう。

アメリカ合衆国, アリゾナ州,
マディソン・B, 14歳

良い友達になる

とにかく、できるかぎり良い友達になりましょう。力になってあげてください。模範となってください。友達のために祈ってください。どのように友達を助けられるか主に教えていただきましょう。主は御自身の子供たちを知り、愛し、自ら拒まないかぎり彼らが正しい道に戻れるよう導いてくださいます。

ドイツ, ロワーサクソニー
イエナ・K, 19歳

霊的な経験を思い出せるよう助ける

バプテスマを受ける決意を促した証を友達が思い出せるようにしてあげましょう。信仰を表したことで主が起こしてくださった奇跡を思い出すように伝えてください。また、祈りの力と神権の力を思い出させてあげましょう。

ウクライナ, ドネツク,
アンナ・R, 21歳

心にかけていることを知ってもらう

教会に戻って来るよう励ます最も簡単な方法は、あなたが彼らを愛している、ワードの人々も同様に愛していると伝えることだと知りました。最近、教会にあまり熱心を集っていない友人がマイアメイドの活動に来ると約束してくれました。神様は、友達の心をどのように動かせるかを教えてくださいます。

アメリカ合衆国, アラスカ州,
デナリ・L, 15歳

助けを必要としている人々を引き上げる



「人の心を動かさずにはおかない主からの神聖な信頼の下で、わたしたちイエス・キリストの教会の会員は^{あがな}贖いの業に携わっています。それは、助けを必要としている人々を引き上げ、救うという業です。また、自分が大きな可能性を持っていることに気づかない人々の目を覚まさせる仕事です。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)
「主の業のすべて」『リアホナ』2002年8月号, 5参照

質問

「友達がタバコを吸い始めました。どうすれば彼女の感情を損なわずに、タバコをやめる手助けをしたいと伝えることができるでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2008年9月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先――

Liahona, Questions & Answers 9/08
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220,
USA

電子メールアドレス――

liahona@ldschurch.org

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署名

親の署名(18歳未満の場合)

家族の 信仰

教会機関誌

キンバリー・リード

イタリアで何世紀も前に建てられた大聖堂は、今日でも国内で最も高い建造物に数えられています。古代遺跡が過去の偉大な社会を今に伝え、曲がりくねった道には中世の家々が軒を連ねています。条例により近代的な高層ビルの建築が禁じられており、のどかなトスカナ地方の景観は法律で乱開発から守られています。国の歴史を守ろうとするイタリア市民の熱意の表れです。イタリアの人々は、あのミケランジェロがルネサンス時代から現代にやって来たとしても、一目で故郷が分かるようにと願っています。イタリアに住む教会員は、建築物や景観以上のものを守ろうとしています。それは世代を超えて続く信仰です。世界の

多くの教会員と同じように、イタリアの末日聖徒は、福音の聖約で結ばれた家族を幾世代にもわたって築こうとしている開拓者です。古いしきたりと、周りの文化では当たり前となっている世俗主義に直面しながらも、救い主を生活の中心に置き、子孫の心に脈々と受け継がれる信仰を築こうとしています。

崇拜の心を持つ家族

家族の信仰を築く最初の要素の一つは、家庭生活を始める勇気です。イタリア・フローレンス地方部フィレンツェ第2支部のマルコ・フェリーニと妻ラファエラはそれぞれ伝道に出る前にデートを重ねていました。帰還して間もなく、二人ともすぐに結婚するべきだと神殿の中で感じました。「イタリアでは30代で結婚するのが一般的です」とマルコは言います。友人や親戚からこう尋ねられることもあり、「何でそんなに早く結婚するの?」

二人は、結婚を大切なものと考えてるのはマルコの両親アンナとブルーノのおかげだと言います。アンナが教会に入った1968年、イタリアに教会員はほとんどいませんでした。自らの





「福音の中で育てれば、 子供たちは疑問への答えを 見つけられるようになる と知っていました。」

—アンナ・フェリーニ

ました」とラファエラは話します。「どなり合うこともなく、穏やかで、互いに親切に振る舞っていました。わたしもそのような家族が欲しいと心から願いました。」

ラファエラもまた神殿結婚を望んでいました。教会員の少ない国

ではなかなか難しい目標ですが、「神殿結婚は良い目標です」とラファエラは言います。「サタンはわたしたちをそそのかして誤った決断をさせようとはしますが、良い目標を心にしっかりと抱いていれば、天の御父はわたしたちがいろいろな問題を克服し、目標を達成できるよう助けてくださいます。」両親が若かったころよりも末日聖徒と出会う機会が増えていることに感謝しています。また、主が「ただ教会員であるというだけでなく、ふさわしい神権者と」結婚する機会を下さったことをうれしく思っています。

ラファエラとマルコは主への感謝を示すため、御霊に導かれたそのときに犠牲を払って結婚しました。簡素で費用のかからない披露宴を計画し、マルコは大学の卒業を遅らせることに決めました。「この国では何をするにもお金がかかるので、学業、仕事、家庭を持つことのうち、二つ以上を同時に行うのは難しいのです。」イタリア人の大半は経済的な理由から、学業を終え仕事が安定してから結婚しますが、「わたしたちの一番の願いは家庭を持つ

左ページ—

信仰に強く立つ

フェリーニ家族。

ジュリア、マルコ、ラファエラ、

ロレンゾ、アレッシオ、

アンナ、ブルーノ

決断について祈った後、アンナはブルーノと結婚しました。ブルーノは彼女の信仰を尊重し、子供に福音を教えることに反対しませんでした。「アンナとは深く尊敬し合っていたので、モルモンである妻と結婚することにまったく不安はありませんでした」とブルーノは話しています。

アンナは、永遠の家族が受ける祝福のすべてを子供に与えられないことに心を痛めました。が、「夫は善良な人なので、やがてはすべてが落ち着くべきところに落ち着くだろうと思っていました」と言います。そう信じながら、息子のマルコとアレッシオに、救い主を中心とした生活を送り、家族を大切にしよう教えました。

やがてブルーノは教会に加わりました。現在はフィレンツェ第2支部の会長です。しかしブルーノが教会に興味を抱くようになるまでの29年の間も、ブルーノとアンナは幸福な結婚生活を築く努力をしていました。愛し合う二人の姿は子供たちや義理の娘たちに良い影響を及ぼしました。「夫の家を初めて訪ねたとき、仲の良い家族だととても強く感じ





ことでした」と言うマルコは、そのために必要なものは3つしかないことを実感しています。それは仕事、住む場所、前進するための信仰です。初めは「良い仕事に就けませんでした、それで十分でした」とマルコは言います。「難しい決断を迫られるときは、とにかく一歩を踏み出さなければなりません。信仰をもって進み、最善を尽くすように努め」、必要な祝福が与えられると信じるのです。やがてマルコは観光業界でより条件の良い仕事に恵まれます。それは伝道中に学んだ外国語のおかげでした。マルコにはまた、^{あかし} 什分の一を納めることについての証もあります。若い家族ですが、これまで一度も行き詰まったことがないからです。

マルコは教育を受けるようにという教会の指導者からの勧告を真剣に受け止めていて、子供たちがもう少し大きくなったら学位を取ろうと計画しています。しかし今は、「家族のそばにすることが大切だという御霊のささやきを感じます。ジュリアとロレンゾという二人の子供が生まれてから、何一つ後悔したことはありません。」

ラファエラは「お金はそれほどありません。でも幸せです」と語ります。彼らは幸福の計画に加わり、福音の祝福を受けられるよう次の世代に真理を教えられることに感謝しています。

目的において一致する

「霊的な一致は、堅固な家族の信仰を築くうえで欠かせない要素になります」と話すのはイタリア・ローマステークのピエロ・ソナーリヤです。「同じ目的を持って一致することは、どの家族も

強めてくれます」が、その目的が「家族でイエス・キリストに近づく」ことであれば特に大きな祝福です。ソナーリヤ家族もこのことを最大の目的として生活しています。

ピエロは昔からそのような優先順位を持っていたわけではありません。15歳で教会を離れて以来、自身が父親となり、父親が心臓発作で危うく命を落としかけるまで、教会に戻ることは考えていませんでした。しかし、これらの経験で、子供のときに学んだ福音の教えを突然思い出しました。「悔い改めて生活を正さなければならないことがよく分かりました」と話しています。また、「このように重大で、驚くほどの変化」は家族に影響を与えることも知りました。両親は離婚していましたが、その理由の一つは宗教の違いでした。ピエロは、自分の家族が一つに結ばれることを願っていました。





ピエロの妻カルラは別の宗教で育ち、子供のころ毎週日曜日に教会に通っていました。「ですが、行く度に混乱してしまいました」と話しています。そのころのカルラにとって、宗教とは、人生を形作るものというよりは単なる伝統でした。彼女はそれ以上のものを望んでいました。書かれた祈りではなく、「自分自身の言葉で、天の御父に自分の祈りをささげたいと心の底から望んでいたのです」と話しています。祈りを通し、真心を込めて主との関係を築いていたおかげで、ピエロが再び活発に教会に通うようになったとき、カルラは回復された福音を受け入れる備えができていました。

信仰において一致した両親となったピエロとカルラは、息子のイラリオとマッティアが誘惑に打ち勝てるよう、幼いうちから備えさせようとしています。「家族で毎晩聖文を読み、家庭の夕べをしています。息子たちは喜んで参加してくれます。わたしたちは教会に通い、一緒に祈ります。神殿にも行きます」とカルラは話します。最寄りの神殿がスイスかスペインにしかないピエロとカルラにとって、定期的な神殿参入は容易なことではありません。

ピエロはさらにこう話します。「あらゆる瞬間を教える機会としてとらえるよう努めています。幼い息子たちは今、人生のこの時期にあって特に両親に従うことを学んでいます。」親から学ぶことにより、息子たちが天の御父に従うことを学べるようになってほしいとピエロは望んでいます。そうすれば、子供たちは10代の間、またその後も、忠実であり続けるために必要な力と証で身を固めることができます。ピエロは、永続する幸福は神に従うことによるのみもたらされるということを知っており、子供たちにも知ってほしいと望んでいます。

ピエロと同じように、イタリア・ローマステークのアンドレア・ロンディネリも父親の死という、人生を変える出来事を経て福音を見いだし

した。「このように終わるはずがないと悟ったんです」と話しています。アンドレアは墓を超えても命は続き、命と死には目的があると感じました。アンドレアは父親の死後、宣教師を探し出して15日後にバプテスマを受け、その15年後には妹たちがバプテスマを受けました。

その後すぐアンドレアは祝福師の祝福を受けました。祝福文の中で、アンドレアは主から永遠の伴侶^{ほんりよ}を約束されました。「伴侶となる女性を探しながら、何度も祈りました」と話しています。霊的な目標を共有できる女性を妻にしたいと望んでいました。相手が神殿での結び固めを望まなかったために婚約を破棄したこともあります。「妻になる女性と出会う備えをするため、できることはすべて行いました」と話します。何度もささげた祈りの答えとして、アンドレアはいつか息子をもうけると感じました。この経験のおかげで、アンドレアは忍耐強く伴侶を探し続け、マリエラに出会うことができたのです。

マリエラは11歳のときにコロンビアで福音を見いしました。母国での伝道を終えた後、イタリアを訪れると、驚いたことに、そして少し

左ページ——
アンドレア・
ロンディネリは
永遠の家族を持てるよう
願い求めました。
妻のマリエラと二人の子供、
ダニエレと
バレンティーナは
祈りの答えです。
上——
ピエロ・ソナーリヤと
妻カルラは
息子のイラリオと
マッティアに
福音を教えています。



ロレンゾ・マリアーニと妻イラリアは、永遠の視点を維持続けることを息子のジョエレとダビデに教えるために犠牲を払っています。

困ったことに、イタリアに永住するよという聖霊の促しを感じました。こう話しています。「コロンビアに住んでいて何の不自由もありませんでした。仕事もありました。教会にも活発に通っていました。学ぶ機会もありました。でも、自分は目的があってイタリアに来たのだと感じました。ここで果たすべき役割があると心を感じたのです。」

アンドレアはマリエラの受けた促しに感謝しています。アンドレアがマリエラと出会ったのは、自身のバプテスマから2年後のことでした。今二人は、自分たちがかつて待ち望んでいたとおりの結婚生活を送っています。神殿で結び固められ、信仰を共にしているのです。二人は「散歩をしたりして一緒に過ごしながら」きずなを強め続けているとマリエラは言います。

家庭の夕べも最も大切なことの一つです。「家族全員で息子のバプテスマに向けて取り組みました」とアンドレアは語ります。何か月もかけて、家庭の夕べの中でどのようにバプテスマと確認に備えるかについて家族で学び、「ダニエレがこれから受け入れることになる原則について研究しました。みんな取り組み、バプテスマに向けて十分に備えられたと感じました。」家庭の夕べでは必ず子供たちにも割り当てがあります。「娘のバレンティーナは音楽の指揮をします。とても上手なんですよ」とアンドレアは笑顔で話します。ダニエレは賛美歌を選び、時々レッスンの準備を手伝います。「毎週月曜日は、家族でいつもすばらしい経験をしています」とアンドレ

アは話します。このような経験は、霊的な土台を強めてくれます。今後、子供や孫が、この土台の上にさらに築いていくことでしょう。

喜びをもって生活する

家族の信仰を築く3番目の要素は、喜びをもって生活することだとイタリア・フローレンス地方部ピサ支部のロレンゾ・マリアーニは言います。ロレンゾは地方部会長会の顧問です。妻のイラリアは専業主婦で、若い女性の責任を果たしています。すべきことはたくさんありますが、笑顔を忘れずに果たしていこうと努めています。幸せだと態度で示すことは、子供たちが福音に従って生活する習慣を身に付ける助けになると信じています。ロレンゾはこう話します。

「教会のために何かをするとき、負担に感じているような姿は見せません。良い態度で臨み、模範を示します。親が喜んでやっているのか、それとも単なる義務感から行っているのか、子供たちには分かるものです。」

イラリアは「子供たちの心に信仰を植え付けるにはどうすればよいか、毎日よく考えています」と話します。愛を込めて息子のジョエレとダビデに接することで、二人が家族を喜びと

感じ、家族のつながりはお金よりも大切だと知ることができるよう望んでいます。こう話しています。「イタリアの家族を脅かす力の一つに、結婚を望まない、あるいは複数の子供をもうけず、一人の子供にお金をかけて多くのものを与えようという風潮があります。」彼女は、自分の子供よりも周りの子供たちの方が物質的に恵まれていることを知っていますが、永遠の真理を子供に教えるために時間をかけることに比べれば、それらのものは「必ずなければならないというわけではありません。」

多くの女性が仕事をし、社会で楽しく交わっているのを見て、イラリアは時々寂しさを感じるがありますが、助けを祈り求めると御霊を感じ、幸福感と力で心が満たされます。「わたしを愛してくれる教会の姉妹たちにも恵まれています」と話します。助けを祈り求めると、支部の姉妹が電話をくれたり手を差し伸べてくれたりすることもあります。

イラリアとロレンゾは、家族の輪をさらに広げ、子孫が何世代にもわたる忠実な先祖から学び、模範に倣う日を楽しみにしています。「わたしたちは子孫のために祈っています」とロレンゾは語ります。第2世代の教会員として、「鎖の中の強い輪になるという大きな責任を感じています。」

ロレンゾとイラリアは開拓者であるという特権に心の底から感謝しています。一族の間で、福音の光の中で子供を育てる最初の親の一人に数えられるからです。ロレンゾの家族では母親が最初に教会に加わりました。イラリアはおばから教

会について学びました。「福音は夫婦関係を強めるうえでも役立っています」とロレンゾは言います。福音の「おかげで、家族を永遠の観点から見ることができます。この世の考え方ではなく、永遠の観点から正しい選択をしようと努めています。」正しい選択を続けることで家族の輪が強まり、忠実な世代が次の忠実な世代へとつながっていくのです。

「総大会で、大平原を横断した開拓者を曾祖父母に持つ話者の話を聞くと、少しうらやましく思うこともあります」とイラリアは正直に話します。先祖が福音のために犠牲を払った人ばかりであることは、なかなか想像できません。しかし、イラリアとロレンゾは母国で教会が発展する様子を見て励まされています。この国に最初の種を植えた宣教師たちに感謝し、さらに豊かな刈り入れが待っていることを確信しているのです。

イラリアはその日を思い描いて笑みを浮かべます。「いつか、だれかがイラリアひいおばあちゃんの日記を読む日が来ます。」信仰の家族の物語が今、イラリアから始まっているのです。

子孫を備える

イタリアの市民が古代遺跡やルネサンス時代の美を守る一方、イタリアの末日聖徒も歴史を築いています。永遠の価値を持つ家族の歴史を築くため、戒めを守り、子供にも同じように教えているのです。救い主が戻って来られる日を待ち望み、子孫が主の弟子に数えられることを願っています。

そのために、イタリアの教会員は自分自身が真の弟子になれるよう努力しています。堪え忍び、勤勉であり、幸せになり、神殿の聖約で結ばれた忠実な家族を築けることを証明しています。イエス・キリストを信じる信仰をはぐくむとはどういうことかを、言葉と模範により次の世代に教えているのです。■



永遠の家

七十人
ベンハミン・デ・オヨス長老



父は偉大な
聖文の教師でした。
今思えば、
父という教師のもとで
勉強したことが、
わたしにとっての
セミナーになりました。

メキシコでわたしは、すばらしい末日聖徒の家族の中で育つことができました。大学生のとき、冬に帰省するのがとても楽しみでした。我が家のドアを開け、シナモンと小麦のトルティーヤの香りを吸い込むのです。物質的には貧しかったものの、福音を愛する、強い証を持った家族でした。

わたしは特に、モルモン書に対する両親の証が大好きでした。父はモルモン書を熱心に研究していました。わたしが成人した後も、親子で何度もモルモン書について話し合っては強い御霊を感じて涙を流したものです。父はモルモン書にある教義を理解していました。1917年に6歳で教会と出会い、改宗した父は、子供のころ、動物たちを放牧していたときの経験を何度も話してくれました。父はいつもバッグにモルモン書を入れていたそうです。

母はいつも家族と主のために生きる穏やかな女性でした。6人の子供を育てながらいつも教会のために奉仕していた母は、家族にとって信仰の力強い模範となりました。この国に伝道部が一つしかなかった1940年代に、母は宣教師として奉仕しています。

父の教え

わたしが子供のころ、父は建築会社のトラック運転手としてきつい仕事に就いており、大変忙しい毎日を送っていました。それでも、いつ

もわたしのために時間を取ってくれました。高校生のとき、父は仕事から帰ると5人の姉や妹たちに「ベンハミンはどこにいる?」と聞いたそうです。

すると彼女たちはやって来てわたしに言います。「お父さんが呼んでいるわよ。」

わたしは友達と遊ぶのをやめ、父のところに走って行き、「お父さん、何か用?」と尋ねます。

すると父はこう言うのです。「聖典を持って、一緒に来なさい。」

こうして週に2、3度、わたしたちは一緒に聖文を読みました。父は偉大な聖文の教師でした。当時メキシコにセミナーはありませんでしたが、今思えば、父という教師のもとで勉強したことが、わたしにとってのセミナーになりました。

聖文を読み、父の説明を聞きながら、御霊を感じるとはどういうことかを、心でも頭でも学びました。それは自分自身で得た知識となりました。父が聖文について説明してくれるとき、御霊をととても強く感じたことが何度もありました。

父とのこのような経験が、天の御父と教会に対する自分の証を築ききっかけになりました。以前から教会は真実であると思っただけでは十分ではありませんでした。父はわたしの手を取り、鉄の棒をつかませてくれたのです。父がこのように接してくれ

族を築く





ある日、友達がわたしを乗せたまま猛スピードで運転し始めました。わたしたちの車は警察官に止められ、怖い思いをしました。将来について考えなさいと言う父の言葉を思い出しました。この経験のおかげで、どのような友達とつきあうべきか、心に決めることができましたのです。

たことは、わたしが福音の中で証を得、心に安心感を持つうえで大きな役割を果たしました。

父との勉強で、わたしは聖文についていろいろなことを学んだだけでなく、父に愛されていることも知りました。当時は十分に理解できませんでしたが、父は父の方法でわたしを愛してくれていたのです。父はほかに、何度も映画や食事に誘ってくれました。父に大切にされたおかげで自分が守られていたということ

が分かります。子供を持つようになった今、父が特別な方法でわたしを愛してくれていたことが分かります。

注意深く友達を選ぶ

16歳のとき、学校の友達のほとんどは教会員ではありませんでしたが、自分が教会員であることは皆知っていました。友達はたばこを吸ったり、わたしならしないようなことをしたり

し始めました。その結果、以前のようなつきあいができなくなりました。彼らの話題についていけず、考えることやすることが合わなくなってしまったのです。

ある日父が言いました。「友達から受ける影響について考えてみなさい。」そしてわたしによく考えるように、また、友達を変える必要があるか検討するように忠告してくれました。

大学生になるととても忙しくなり、あの友達といつも一緒にいることはなくなりました。しかしある日、彼らと一緒に車に乗っていると、皆が何か悪いことをしようと申しだし、猛スピードで運転し始めました。わたしたちの車は警察官に止められ、恐い思いをしました。将来について考えなさいと言う父の言葉を思い出しました。この経験のおかげで、どのような友達とつきあうべきか、心に決めることができたのです。

わたしは教会の活動に活発に参加するようになりました。ミュニシャルはとても楽しかったです。そこで出会う友達とつきあおうと決めていたからです。善い友達と交わらなければならないという父の言葉は正しかったと知りました。わたしには伝道の準備を手伝ってくれるような友達が必要だったのです。

愛ある天の御父

父がそうだったように、天の御父もわたしのことを大切に扱ってくださいます。天の御父がわたしを愛してくださっていることを知っています。様々な方法で、また様々な状況の中で、御父はわたしたち一人一人を心にかけてくださいます。時々わたしたちは、御父より友達のことばかりを考えてしまい、御父の声が耳に入らなかったり、進んで御父の声を聞こうとしなかったりすることがあります。天の御父はそれでもわたしたちを愛しておられることを知っています。助けを求めれば御父はそばに来てくださいます。御父は、わたしたちが、そのことを心の中で理解できるような機会を与えてくださいます。

聖餐を配るといふ特権

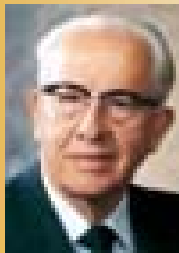
青少年のときに、聖餐会で御父の愛を感じたことをよく覚えています。ワードには若い男性がほんの2、3人しかいなかったの、日曜日には必ず聖餐を配りました。教師になると、毎週パンと水の準備をしました。当時はガラスのカップを使っていて、一つ一つ洗わなければなりませんでした。

聖餐を配るとき、会員たちの目を見ることができました。年配の人、若い人、子供たち。一人一人が特別な思いでパンと水を取っています。彼らが天の御父の愛を強く感じていることが分かりました。聖餐を通して得た経験は、永遠に忘れられない記憶となりました。わたしは毎週、自分たちのために亡くなられた主を思い起こします。ふさわしければ、家族として永遠に一緒にいられることを思い出すのです。

証による慰め

年を取った父は、自分がやがてこの世を去るということについてわたしと話しました。父に恐れはありませんでした。むしろ平安でした。死について話す父には、家族と再び一緒にになれるという確信がありました。贖いと復活のおかげで、父とわたしの心には大きな安心感があったのです。復活の奇跡について、わたしたちはいつも主に深く感謝していました。

父の教えのおかげで、わたしは幼いころから、イエス・キリストの福音が真実であることを、頭だけでなく心でも知ることができました。モルモン書が真実であること、ジョセフ・スミスが預言者であること、トーマス・S・モンソン大管長という預言者が今日与えられていることを、御霊は何度も教えてくださいます。わたしには福音があるということを知っているのおかげで、幸せであることができます。わたしは確かに、主がわたしたちのことを心にかけ、わたしたちを御存じであることを知っています。その結果わたしは、主イエス・キリストに対する自分自身の知識を得ることができました。主の犠牲のおかげで、父やほかの家族と再び一緒になれると知っています。■



両親はあなたを助けてくれます

「お父さんやお母さんを誇りに思ってください。お父さんやお母さんは、皆さんが正しい道を選ぶように助けてくれます。……高い目標を持つ人、また自分を高めてくれる人を友達にしてください。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)
「教会の子供たちへ」『聖徒の道』1989年7月号, 86

これまでの…… 人生で最大の 試験

大切な試験に備えること^{ひけつ}で、
アンドレアは究極の試験に合格する秘訣を学びました。

教会機関誌

アダム・C・オルソン

チ

リのサンティアゴに住むアンドレア・ゴンサレスには、高校生ときに、どうしてもかなえたい夢がありました。それは、いざというときにも家族を養えるだけの機会を与えてくれる大学の学位を取ることです。そのために、アンドレアはセミナー

を卒業し、学校で良い成績を修め、大学入試のための実力判定試験 (PSU) で工学部に入るのに必要な点数を取りたいと願っていました。

しかし PSU の準備を進めながら最終学年に入ると、アンドレアは、何一つ達成できないのではないかと悩むようになりました。「目標のどれ一つをとっても、達成できるようには思えませんでした」と彼女は振り返ります。

楽な目標はない

アンドレアは、競争の激しい男性優位の研究分野へ進もうとしていました。競争の厳しさから、名門と言われる大学は PSU の数学できわめて高い得点を要求しています。お金の高い私立高校の生徒でなければ、普通はなかなかそのような点を取ることはできません。

アンドレアは、このハードルに挑戦し、乗り越えるために、最終学年に入ると過酷なスケジュールを組みました。朝早く起き、放課後は遅くまで勉強しました。食事はわずかな空き時間に済ませ、週に4回、夜のセミナーを何とか予定に詰め込みました。

アンドレアはこう語ります。「落ち込むこともありません。いろいろなものを犠牲にしなければならなかったからです。わたしが『いいえ、だめなの。勉強しなくちゃ』と言うのを友人は何度も聞いたと思います。また、勉強の虫と言われてからかわれたことも数え切れません。」

しかし、安定した将来を望むなら途中で投げ出すわけにいかないことは分かっていました。





大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長はこう言っています。「人生での大いなる試しとは、人生の嵐の真^{あらし}ただ中でわたしたちが神の命令に聞き従うかどうかを見ることなのです。」¹

主とともにいれば、手に負えない試験はない

アンドレアは、しばしば二つの試験の間で悩みました。しかし、まさにそのときに、アンドレアは神を第一に置くことが両方の試験に合格する秘訣であることを学んだのです。

アンドレアは、教会の活動と学校の行事、福音の勉強と試験勉強のどちらかを選ばなければならない状況に何度も直面しました。しかし、教会を第一に選ばばより良い気持ちになるということを早いうちに学んだと話しています。まず天の御父に関心を向けるならば、御父は自分の問題が解決できるよう助けてくださるとい^{あかし}証が強まったのです。

アンドレアは、これらの経験からもう一つの大切な教訓も学んだと話します。「御父は試験をなさいます。合格できるよう助ける力も持っておられます。」

アンドレアのあこがれであるニーファイもこのように言っています。「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3:7)

最初の試験は合格でした。しかしアンドレアは、次の試験に合格する準備が整ったと言えるようになるには、まだ学ぶことがたくさんあることを知っています。

試験に合格

犠牲が報われる時が来ました。PSUの数学で、アンドレアは満点の850点を取った全国200人のうちの一人になりました。しかも、公立高校の女子生徒で満点を取ったのは二人だけだったのです。

また、セミナーでも一生懸命学び、優れた成績で卒業しました。そのほか、時間を取ってクラスメートたちの勉強を手伝ったことで、年間「ベストフレンド賞」にも選ばれました。

アンドレアは、合格したのは何をすべきかを知っていたからであり、自分にどれほどの知識があったかということとはあまり関係がないと考えています。言い換えれば、祝福は、自分の思いではなく主の勧告に従うことから来るのです(2ニーファイ9:28-29参照)。「神様をないがしろにするようなことがあれば、頭が良くても何の価値もありません。いつも神様を第一に置かなければなりません」と彼女は話しています。

別の試験


アンドレアは大学入試の勉強をしながらこの原則を学びましたが、これは彼女が受けていた別の試験にも欠かせないものでした。それは、あらゆる人が受けなければならない、人生という名の試験です。

この試験について、主御自身も聖文の中でこう説明しておられます。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム3:25)

「天の御父が試験をなさるのは、わたしたちがどのような行動を取るかを御覧になるためです。」過酷なスケジュールに添って努力したことや、時にはからかわれても忍耐したことを振り返りながらアンドレアは話します。「人生の試験に合格するには、従順でなければなりません。」

従順さは物事がうまくいっているときだけでなく、困難なときにも求められます。

写真：アダム・C・オルソン、その他の説明のあるものを除く。背景—写真：クレイグ・ダイヤモンド



それでも、神を第一に置くなら、その試験にも合格できるように神が助けてくださることを知っているのです。■

注

1. 「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号, 37



アンドレア、
満点
おめでとう!

主の教科書

大切な試験に備えるためにアンドレアが読んでいたのは、数学と科学の教科書だけではありません。

「聖文は主の教科書です。聖文には、神様がわたしたちに理解するよう望まれる事柄が書かれています。わたしたちは聖文を研究しなければなりません」と話しています。

落ち込んだときにアンドレアが開いたのは学校の教科書ではありません。「主の教科書を読んで元気になりました。がっかりすることがあったら、聖文を読むことで助けが得られます。」

アンドレアは特にモルモン書が大好きになりました。「モルモン書のおかげでわたしの人生が変わりました。聖文に登場する人々の模範は、ほんとうにわたしを助けてくれました。」

ニーファイは、試練を乗り越えられるよう神が助けてくださると信じていました。このことは試練に直面したアンドレアにとって偉大な模範となりました。「ニーファイに助けられたことが何度もあります」と彼女は言っています。

ニーファイは次のように語りました。「しかし見よ、主の深い^{あわ}憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。」(1ニーファイ1：20)

次の聖句を読んで、主を信頼したニーファイの模範から学びましょう。1ニーファイ3：7, 4：1, 7：12, 9：6, 17：3, 50。2ニーファイ4：19, 34。

聖文研究を常に 実りあるものとするために

聖文を効果的に研究する様々な方法を、
世界各地の教会員の経験から紹介します。

1830年に預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主はこのように勧められました。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19:23) スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、この平安と導きを得るという約束を次のように再確認しています。「わたしは自分と神との関係が密接でなくなったと感じるとき、また神が耳を傾けず、声を発しておられないように感じるとき、神から遠く離れていることが分かります。そのようなとき、もし熱心に聖文を読むならば、その距離は縮まり、霊性が戻ってきます。」¹

聖文に没頭するために、教会員が見つけた幾つかの方法を紹介します。

預言者について研究する

モルモン書は何度も読んできましたが、毎回、異なるテーマや教えを探しながら読むようにしています。今回は、モルモン書の預言者についてもっと知りたいと思いながら研究することにしました。ニーファイ第一書を読み始め、リーハイについて6つのテーマに分けてメモを取りました。教え、人格、家族との関係、神との関係、神からリーハイへのかかわり方、啓示を受けた方法の6つです。リーハイの後の預言者たち、ニーファイとヤコブについても同じ方法で研究しました。主が預言者として召される人々に共通する特質、またそれぞれの預言者が最も重点を置いて教えた事柄を見いだそうと努めています。

アメリカ合衆国、カリフォルニア州、デブ・ウォールデン

「約束の地に到着するリーハイとその民」アーノルド・フライバーグ画

二 ニ ーファイはこう 書いています。 「わたしは

聖文に喜びを
感じるからである。
わたしは
聖文について
心に深く考え、
わたしの子孫の
知識となり
利益となるように
これを書き記す。」
(2ニーフай4:15)

自問する

聖文を読みながら自問するようにしています。わたしの問いは二種類に分けられます。一つ目は、聖文を理解し、生活にどのように当てはまるかを考えるための質問です。次のように自問します。——この状況は自分の生活のどんな点と似ているだろうか。何の原則が教えられているのだろうか。なぜ著者はこの記述を含めることにしたのだろうか。どのようにすれば今の自分の生活に当てはめられるだろうか。二つ目は、生活の中で悩んでいる事柄、つまり答えを求めている状況や問題についての質問です。家族の問題に対処することや仕事を変えることなど何でもかまいません。このように自問すると、御霊に耳を傾け、主が何を教えようとされているか知ろうと努めながら、ほんの数節で聖文学習のすべての時間を使っていることがあります。心に問いかけながら読むときに、答えが見つかるということが分かりました。

アメリカ合衆国、カリフォルニア州、ジョアンヌ・Z・ヨハンソン

聖文の場面にいる自分を想像する

標準聖典を読むときはいつも、目的をもって読んでいます。自分やほかの人にとって興味深く有益な事柄を探したいと願うようにしています。騒音や話し声が聞こえない場所を見つけます。気を散らすものを避け、聖文に無関係な思いを追い払うようにします。それができるよう、読んでいる出来事が実際に目の前で起こり、その場を目撃している自分を想像します。そうすると、周りの世界から完全に隔離されるほど集中することができます。

ドミニカ共和国、
ファン・デ・ディオス・
サンチェス

聖文日誌をつける

これまで聖文に没頭したときのことを思い出すと、受けた印象や感動した聖句を記した研究記録を必ずつけていました。そこで、ノートとペンを取り、聖典のそばに置くことにしました。始めたころは、読んだことについて書くのは面倒な作業でした。大変な時間と労力が必要でした。当初は仕事の前に少しかだけ霊的な糧を得られればよいと思っていただけだったので。それでも投げ出さずに続けました。すると、聖文がいきいきと語りかけてくるようになったのです。聖句について考え、細かく分析し、生活に当てはめるようになりました。簡潔な聖句が、子育てに関する厄介な問題への解決策を与えてくれました。やがてメモを取ることが苦にならず、ただ読むのと同じ時間でメモが取れるようになりました。また、過去に受けた印象や感想を読み直すと、現在の疑問や問題の答えを見つけられることも分かりました。あたかも主が、わたしが必要とするひらめきを数週間前に与えてくださっているかのようです。

アメリカ合衆国、ユタ州、エリカ・ミラー

祈りで始める

読み始める前の祈りの大切さを理解して初めて、聖文の内容を理解する力が大きく向上したことに気づきました。読む前に熱心に祈ると、聖霊が思いに語りかけてくださることが分かりました。誠意をもって心から天の御父に祈ることで、聖文を研究し深く考える際、自分の霊が聖霊と語り合うことができるようになりました。やがて、問題に対する多くの答えを聖文の中から見つけられるようになりました。そのときの自分が直面している問題に焦点を当てて祈り、自分の思いに理解力が与えられるよう天の御父にお願いすると、生活で大切な事柄について新しい見方ができるようになります。読む前に熱心に導きを求めるときに、自分に当てはめられる状況を聖文の中に見いだすのです(1ニーフай19:23参照)。

アメリカ合衆国、ワシントン州、ジェス・ラッド



質問を思い浮かべながら読む

「あるときは教義を知るために聖文を読みます。または、導きを得るために聖文を読むときもあります。わたしは心の中で質問を思い浮かべながら読むのですが、おおかたの場合、その質問は次のようなものです。『神はわたしに何をどのように求めておられるのだろうか。』または『神はわたしに何を感じるように望んでおられるのだろうか。』そうすると、今までになかった、新しい発想や考えが浮かんできて、靈感と導きと、質問に対する答えを受けます。』

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

『聖文研究について語る』『リアホナ』2005年7月号、8参照

救い主の教えを探す

チリのサンティアゴ西伝道部で専任宣教師として奉仕していたとき、聖文研究について、また求道者や自分にとっていっそう効果的に聖文研究を行う方法について貴重な発見をしました。ある日、すてきな若い夫婦と子供たちを教えていると、第三ニーファイ第11章を読むだけでなく、目的を持って読むよう勧めるべきだという思いがはっきりと浮かびました。同僚とわたしは、ここを読むことで、救い主がアメリカ大陸を訪れられたことがわかります、と簡単に証をする代わりに、救い主が何を教えられたのか、特に最初に教えられたことは何かを見つけるよう夫婦に勧めました。加えて、子供たちにも宝探しをするような気持ちで同じところを読むように勧めました。彼らはわたしたちの言葉に真剣に聞き入っていました。子供たちも、真理というモルモン書に隠された宝を両親が探すのを手伝いたくてうずうずしていました。その姿を見て、わたしたちは家族が約束どおり聖文を熱心に研究してくれるという確信を強めました。

翌日、再び訪問すると、彼らは聖文を読み、古代アメリカ大陸の住民へのキリストの最初の教えを見つけただけでなく、第11章に書かれた主の教えのほとんどを自分の言葉で言えるようになっていました。子供たちも、とても楽しい経験をしたようでした。

アメリカ合衆国、ミネソタ州、ライアン・ガシン

大会説教と賛美歌を活用する

我が家では家族の聖文研究がうまくできませんでした。子供たちを集中させるのに苦労していたのです。そこで、このような手法を試みました。夫とわたしが声に出して、交互に総大会の説教を読みます。聖句が出てくると、その箇所を言います。すると子供たちがその箇所を見つけ、皆が印を付けると、子供の一人がその聖句を読むのです。子供たちは聖典と鉛筆を手に、いすから乗り出すような勢いで参加してくれました。これで終わりだと言うと、子供たちは「お願い。もう一つだけ聖句を言ってよ」と言うのです。聖文研究を終える前には賛美歌を歌いました。歌う準備ができると、『賛美歌』の後ろにある参照聖句

索引の見方を教えました。すると、その中から子供たちは自分で印を付けた聖句を見つけ、わたしたちは対応する賛美歌を歌いました。賛美歌は、家族で勉強した福音の原則を再度強調してくれました。実に有意義な聖文勉強になりました。■

アメリカ合衆国、バージニア州、ドナ・マカーディー・ニールソン

注

1. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』66-67





歌 声が
教会の高い天井に
こだますると、
教区の会員たちは
この賛美歌の慰めに満ちた
メッセージを理解して
涙を流し始めました。

大聖堂にこだました賛美歌

コリン・アラン

2004年9月、第二次世界大戦でのオランダ解放60周年を祝うため、二人の孫、ジムとアリエンヌとともにオランダを訪れました。B-24爆撃機の副操縦士だった兄のエバンが1944年の解放作戦の途中で戦死しており、わたしたちはオランダの歴史団体から記念式典に招待

されていたのです。

滞在中、記念額を納める式に出席するため、国境を越えてすぐの所にあるドイツの町ホーマーズムへ行きました。エバンの飛行機が墜落した地です。この式典の主催者の一人に、ゲラルド・チューリン神父がいました。わたしは式典で話をし、17歳のアリエンヌはアメリカ国

歌「星条旗」を歌い、15歳のジムは、合衆国国旗の掲揚を手伝いました。

その後、チューリン神父に、翌日オーステルハウスにある神父の教会で行われる、解放記念特別ミサに出席したいと伝えました。神父はわたしたちが関心を持っていることを喜び、ミサに招待してくれました。それから、わたしは勇気を奮い、アリエンヌをミサで歌わせてもらえないかと切り出しました。そのことについて、アリエンヌとは事前に相談してありました。

驚いた神父は尋ねました。「何を歌うのですか。」

「『神の子です』¹という曲です」と答えました。

善良で親切な神父は、少しの間考えてからこう答えました。「わたしたちは皆、神の子です。ぜひ、歌ってもらいましょう。」

翌朝早く解放記念ミサに向くと、教会は人でいっぱいでした。ミサの途中で、チューリン神父はこれからアリエン

ヌが前に出て歌うと発表しました。神父はアリエンヌを前まで連れて来るところ言いました。「これから、ユタ州から来たモルモン少女の歌を聞きます。」

楽譜も伴奏もなしでアリエンヌは歌い始めました。歌声が教会の高い天井にこだますると、教区の会員たちはこの賛美歌の慰めに満ちたメッセージを理解して涙を流し始めました。

集会が終わると、たくさんの人が、賛美歌を歌ったアリエンヌに感謝と愛を示してくれました。この経験は、人種や宗教、言語にかかわらず、わたしたちすべてが神の子供であるということ、力強く思い起こさせてくれました。■

注

1 「賛美歌」189番

忘却の かなたから現れた すばらしい求道者

ペリー・W・カーター

ある朝、電子メールを確認していると、届いたメールの中にエンリケ・ホルヘ・ディアスという覚えのない名前があるのに気がつきました。件名は「すばらしい求道者からのサルードス(ごあいさつ)」となっていました。

どんな内容なのか見当がつかず、削除しようと思いました。しかし好奇心に勝てずに開いてみると、メッセージはスペイン語で書かれていました。

読んでみると、そのエンリケ・ディアスという男性は、18才のときにアルゼンチンのアドロゲに住んでいたことが

分かりました。30年以上前に、専任宣教師として奉仕した町です。ある朝、町の繁華街を歩いていた彼をわたしが呼び止め、最初の示現についての小冊子を渡したのだそうです。同僚とわたしは、伝道部長の指示に従い、午前中はよく小冊子を配っていました。アドロゲの町の歩道に立って、恐らく何百人もの人と話しましたが、名前を覚えてくれた人はほとんどいませんでした。わたしたちと30秒以上話してくれる人はまれでした。

30年以上がたち、そのような若い男性に話しかけたことなど思い出さずすべもありませんでしたが、彼はわたしを覚えていました。メールを受け取る2、3週間前、わたしはアルゼンチン伝道部のウェブサイトに分前の名前を載せており、ディアス兄弟は、そこでわたしの名前を見つけたのです。

30年以上がたち、アルゼンチンのある通りで若い男性に小冊子を手渡したことなど、思い出さずすべもありませんでした。

メールには、ディアス兄弟が小冊子を持って帰り、母親に見せたと書いてありました。母親はジョセフ・スミスについてもっと学ぶように勧めました。数か月後、ディアス兄弟が宣教師を見つけようとしたときには、わたしはもう別の地域に転任した後でした。

ディアス兄弟はほかの宣教師から福音を学び、バプテスマと確認の儀式を受けました。わたしはそれからさらに20か月アルゼンチンで伝道しましたが、

彼がバプテスマを受けたことは、一度も聞きませんでした。

遠い昔のあの朝、通りで交わした短い会話が、彼やほかの多くの人の人生を変えていたのです。バプテスマから2年後、彼は伝道に召されアルゼンチンの北部で奉仕しました。その後結婚し、忠実な教会員として生活を続け、ビショップや二つのステーク会長会での顧問、高等評議員などの様々な召しを果たしてきました。メールには、長



男がボリビア・ラ・パス伝道部で伝道したことも書き添えてありました。

そのメールを読んで、心にわき上がった喜びはとも言葉で表せません。伝道中、うれしいことはたくさんありました。しかし、随分遅れて届いたこのエンリケ・ホルヘ・ディアス兄弟からのニュースは、宣教師として奉仕したすべての思い出を、さらに喜ばしいものにしてくれました。■

パンと証^{あかし}

ビダ・H・リデル

ある断食日曜日、扶助協会の時間に、ワードのある姉妹が立ち上がって証をしました。主がどれほど自分を愛し、大切に思っておられるかが分かりましたという言葉で証を始めた彼女は、次のような経験を話してくれました。

肺炎を患っていた彼女は、ある朝とても苦しんでいました。食欲は著しく減退し、手作りのパンがあれば、それだけは口に入りそうだと思います。気持ちは弱まる一方でしたが、この苦しみを乗り越えられるよう、助けを求めて祈っていました。

すると同じ日の午前、訪問教師が手作りのパン1斤を持って訪ねて来てくれたそうです。彼女は天の御父からの愛を感じたと証しました。御父は彼女の祈りを聞き、まさに彼女が必要としていたものを与えてくださったのです。

彼女の証を聞きながら、その訪問教師が自分だということに気がつきました。なぜあのかきパンを持って行こうと思いついたのか、あの朝のことを振り返りながら思い出そうとしました。

声を聞いたわけではありませんでしたし、胸が燃えるようなこともありませんでした。あの日パンを焼いたのは、目が覚めたときにただそうしたいと思っ



たからでした。

何斤かのパンを作りながら、病に苦しむあの姉妹のことを考えました。病気の彼女に、自分は何もしてあげることができないと感じていました。どうすれば彼女の苦しみが和らぐのか分からなかったからです。パンを持って行くことを思い

つきました。しかし、焼き上がったパンの形が多少いびつだったので、持って行くのはやめようかと迷いました。しかし味は悪くないようです。わたしは「気持ちだけでも伝われば」と思いました。

温かい不格好なパンを包み、彼女の家を持って行きました。パンを渡すと、彼女はほほえみ、感謝してくれましたが、ほかにできることはないかというわたし

の質問には、特にないので大丈夫と答えました。わたしは良い気持で家路に就きましたが、あまり役に立てなかったという思いはぬぐえませんでした。

数か月が過ぎ、彼女の証を聞いて、彼女の祈りがこたえられるよう聖霊がわたしにささやいてくださっていたということが分かりました。この経験のおかげで、御霊の^{みなま}促しにこたえることがいかに大切かを学びました。もし何か善いことを行おうと思いついたらそうすべきです。救い主は言われました。「善を行うように人々を促すものはすべて、わたしから出る。善はわたし以外の者からは出ない。」(エテル4:12)

善いことをしようという思いが心に浮かぶとき、それは御霊から来るということが分ります。そのような促しがどれほど重要なものになるか、わたしたちは分かりません。手作りのパン1斤が祈りの答えとなり、証を強めてくれることになるとは思いもしませんでした。またその姉妹も、扶助協会で自分の経験を紹介するよう促しを受けたとき、それを通してわたしが御霊を認識することについて価値ある教えを学ぶことになると思いませんでした。■

作りの
手パン1斤が
祈りの
答えとなり、^{あかし}
証を強めて
くれることになるとは
思いもしませんでした。

わたしはほんとうに 知っていたのでしょうか

ジャスティン・ゲラシターノ

1998年、オーストラリアで楽しい時間を過ごしたある夜、親友から車で送ってほしいと頼まれました。彼の家に向かいながら、お互いの基本的な信条について話し合っていました。彼は無神論者で、わたしは末日聖徒です。わたしはこれまでずっと、神がおられることを知っていました。逆に彼はこれまでずっと、神は存在しないと信じてきました。

その夜、わたしは今までしたことがないことをしました。友人が車を降りる直前、彼に向って、神が生きておられること、イエスがわたしたちの救い主であられること、ジョセフ・スミスが示現で御二方に会ったことを知っていることと伝えたのです。

わたしはそれまで、こうしたことについて度々彼と話し合っていました。それが真実であることを知っていることは一度も口に出したことがありませんでした。しかし、彼の心にいつまでも消えない印象を残したければ、彼に証しなければならぬと感じました。

友人はドアを開け、わたしと握手して言いました。「すごく立派だと思ったよ。皆、自分の信じていることに自信を持って

いなければいけないよね。」

しかし困ったことに、実はあまり確信がなかったのです。そのときは、あのように言うことが正しいと感じましたが、それが真実であるという霊的な確証を受けたことはありませんでした。

家に着くまで20分ありました。その20分がわたしの人生を変えました。彼との会話を思い返しなが、人生について、また自分は何のような将来を目指しているのかについて考え始めました。思いを巡らせていると、賛美歌「主は生けりと知る」が頭に浮かび、わたしの魂を貫きました。わたしは、車の中で声を出して歌い始めました。

あかし
証をすることが
正しいと
感じましたが、
それが真実である
という霊的な確証を
受けたことは
ありませんでした。

主は生けりと知る
そは幸を与う
死にし主は生きて
永遠に生きたもう¹

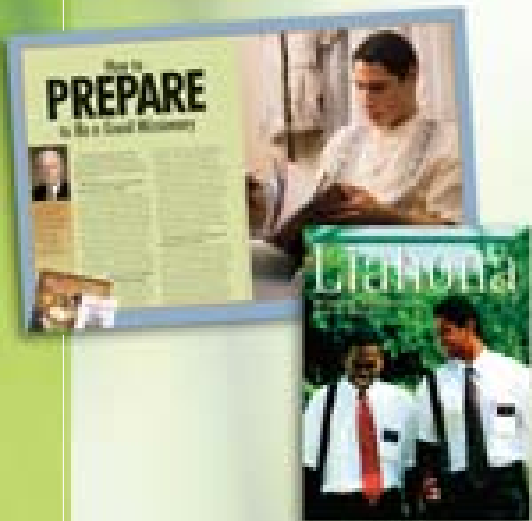
歌っているうちに、目に涙があふれてきました。御霊が、この歌詞が真実であると証し、自分の証が真実であるという確認を与えてくれたのです。そのとき、証は実際の証をしていく中で得られるものだだと悟りました。²

自分の証が真実であると御霊が証してくれたことを、わたしは決して忘れないでしょう。贖い主が生きておられることを知っています。御霊がわたしの魂にそう証したからです。それから間もなく、その証を伝えるために専任宣教師になれたことをうれしく思っています。■

注

- 1 『賛美歌』75番
- 2 ボイド・K・バッカー「霊的な知識の探求」『リアホナ』2007年1月号、18参照





主の業に召されて

専任宣教師として奉仕する備えについて特集した『リアホナ』2007年3月号にとっても感謝しています。記事を読み、伝道に出る決意を固めました。数か月後、わたしは伝道の召しを受けました。『リアホナ』の記事のおかげで、主がわたしを伝道の業に携わるよう召されたのはまさにこのときだと悟りました。『リアホナ』は、わたしたちが正しい選びをするように導いてくれます。

フィリピン、ジュビー・セビーリャ姉妹

感動しました

『リアホナ』はわたしにとって大きな価値があります。『リアホナ』のない生活は想像できません。事実、21年前にわたしが改宗したときも、『リアホナ』は大切な役割を果たしてくれました。家族について書かれた記事に強烈な印象を受けたのです。一緒に祈る家族、一緒に教会に行く家族、互いをいたわる家族など、そのすべてに感動し、おかげで福音を理解できるようになりました。皆さんのすばらしい働きに感謝しています。

スイス、ベアトリス・スンケ

結婚生活を強める

最近結婚した友人に『リアホナ』をプレゼントしました。結婚について、また互いに愛と関心を示し合う神聖な責任についての記事が載っていたからです。友人は教会員ではありませんが、ご主人と一緒に読み、結婚生活を強める助けになったと言ってとても感謝してくれました。『リアホナ』は、教会員にも、教会員ではない人にも祝福をもたらしてくれます。

ベネズエラ、ベアトリス・デ・ガイガ

心からの感謝

天の御父と、この国に御父のメッセージを届けてくれる『リアホナ』の編集者に、心から感謝します。『リアホナ』は、教会に悪感情を抱いている友人の中にいるときでさえも、そのような印象をなくすために常に勇敢に立ち向かう自信を与えてくれました。引き続き、このすばらしい『リアホナ』を届けてください。福音が世界のこの地に広がっていくことを知っています。

ナイジェリア、アスクオ・ドミニク・エクベニオン

最高の機関誌

わたしは新会員です。『リアホナ』から福音についてたくさんのことを学びました。ルームメートたちは『リアホナ』にとっても興味を持っています。宗教は違いますが、彼らは毎月『リアホナ』が届くのを楽しみにしています。友達の一人は、これほどすばらしいものは一度も読んだことがないと言っています。わたしたちは皆、家計管理の表に関心を持ちました(2007年9月号付録『すべての必要なものを用意しなさい』

の「予算ワークシート」参照)。皆で実行しようと約束しました。ただし彼らは、什分の一の部分については貯金に回すそうです。

インド、ラージャ・サラモン

賛美歌に心打たれて

『リアホナ』2007年5月号を読んでいて、ジェイ・E・ジェンセン長老の「賛美歌の持つ養いの力」に深く感動しました。わたしにも賛美歌の持つ力について、強い証^{あかし}があります。2000年2月、地元のラジオ放送で、それまで耳にしたことのない歌を聴きました。メロディーだけでなく、聖歌隊の歌い方や、歌詞のメッセージもとても気に入りました。後になって、その曲は末日聖徒と呼ばれる人たちが歌っていたことを知りました。最初から最後まで歌詞が欲しくなり、教会に行くしかないと思いました。初めて出席した日曜日、何よりもまず、賛美歌を手に取りました。あの曲がありました。『賛美歌』17番「恐れず来たれ、聖徒」です。それから数か月後、わたしはバプテスマを受けました。

リベリア、リチャード・S・スコットランド





「ニーファイの折れた弓」 ジェレミー・ウィンボーク画

「そして、わたしニーファイは食糧にする獲物をとるために出て行ったが、見よ、純良な鋼でできているわたしの弓を折ってしまった。
それで、弓を折ってからは、食糧を得ることができなかったの、
見よ、兄たちは弓を使えなくしたことでわたしに大いに腹を立てた。」(1ニーファイ16:18)



世界の多くの
教会員と同じように、
イタリアの末日聖徒は、
福音の聖約で結ばれた家族を
幾世代にもわたって
築こうとしている開拓者です。
古いしきたりと、
周りの文化では当たり前となっている
世俗主義に直面しながらも、
救い主を生活の中心に置き、
子孫の心に脈々と受け継がれる信仰を
築こうとしているのです。
「家族の信仰」28ページ参照

